

AX4B

AX4B Pro

オンラインマニュアル

DOC. NO.: AX4BP-OL-J0201B

製品概要

ハードウェア
インストール

ドライバ及び
ユーティリティ

AWARD BIOS
セッティング

用語解説

トランザクション
センター
電子マニュアル

マニュアル目次

AX4B / AX4B Pro	1
マニュアル目次	2
注意事項	9
インストールの前に	10
製品概要	11
製品機能の特長	12
クイックインストールの手順	17
マザーボード全体図	18
ブロックダイアグラム	19
ハードウェアのインストール	20
“オプション”及び“アップグレードオプション”について	21
JP14 による CMOS データのクリア	22
CPU のインストール	23
CPU ファンのインストール	25
CPU ジャンパーレス設計	26
AOpen “ウォッチドッグタイマー”	27
CPU コア電圧のフルレンジ調整機能 (AX4B Pro のみ)	28

CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き)	30
JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ機能の設定ジャンパー	31
DIMM ソケット	32
フロントパネルコネクタ	34
ATX 電源コネクタ	35
AC 電源自動回復機能	36
IDE 及びフロッピーコネクタの接続	37
IrDA コネクタ	39
AGP (アクセラレーテッドグラフィックスポート)拡張スロット	40
AGP 保護テクノロジー	41
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ	42
WOL (ウェイクオン LAN) 機能	45
CNR(コミュニケーション及びネットワーキングライザー) 拡張スロット	47
PC99 カラーコード準拠バックパネル	48
第二 USB ポートをサポート	49
ケース開放センサーコネクタ	50
CD オーディオコネクタ	51
モデムオーディオコネクタ	52
AUX 入カコネクタ	53

GPO (汎用出力)コネクタ.....	54
フロントオーディオコネクタ.....	55
ダイハード BIOS (AX4B Pro のみ)	56
Dr. LED コネクタ.....	58
Dr.ボイス (AX4B Pro のみ)	60
JP1 によるブザー及び JP2 によるスピーカーの設定ジャンパー.....	61
バッテリー不要及び耐久設計.....	62
過電流保護.....	63
ハードウェアモニタ機能.....	64
リセット可能なヒューズ.....	65
2200µF 低 ESR キャパシタ.....	66
レイアウト (周波数分離ウォール).....	67
純アルミニウム製ヒートシンク.....	68
ドライバ及びユーティリティ	69
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー.....	70
Intel®チップセットソフトウェアインストールユーティリティのインストール.....	71
Intel IAA ドライバのインストール.....	72
オンボードサウンドドライバのインストール.....	73
ACPI ハードディスクサスペンド.....	74

ACPI サスペンドトゥーRAM (STR).....	78
AWARD BIOS	80
BIOS 機能の説明.....	81
Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法	82
BIOS セットアップの起動方法	84
BIOS のアップグレード.....	85
オーバークロック	87
VGA カード及びハードディスク.....	88
用語解説	89
AC97 サウンドコーデック.....	89
ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース).....	89
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート).....	89
AMR (オーディオ/モデムライザー).....	90
AOpen Bonus Pack CD	90
APM (アドバンスドパワーマネジメント)	90
ATA (AT アタッチメント).....	90
ATA/66.....	90
ATA/100.....	91
BIOS (基本入出力システム).....	91

Bus Master IDE (DMA モード).....	91
CNR (コミュニケーション及びネットワーキングライザー).....	92
CODEC (符号化および復号化).....	92
DDR (ダブルデータレーテッド) SDRAM.....	92
DIMM (デュアルインライン メモリモジュール).....	92
DMA (ダイレクトメモリアクセス).....	93
ECC (エラーチェックおよび訂正).....	93
EDO (拡張データ出力)メモリ.....	93
EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM).....	93
EPROM (消去可能プログラマブル ROM).....	94
EV6 バス.....	94
FCC DoC (Declaration of Conformity).....	94
フラッシュ ROM.....	95
FSB (フロントサイドバス)クロック.....	95
I ² C Bus.....	95
IEEE 1394.....	96
パリティビット.....	96
PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM).....	96
PC-100 DIMM.....	97

PC-133 DIMM.....	97
PC-1600 および PC-2100 DDR DRAM	97
PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス	97
PDF フォーマット	97
PnP(プラグアンドプレイ)	98
POST (電源投入時の自己診断)	98
RDRAM (Rambus DRAM).....	98
RIMM (Rambus インラインメモリモジュール).....	98
SDRAM (同期 DRAM)	99
シャドウ E ² PROM.....	99
SIMM (シングルインラインメモリモジュール).....	99
SMBus (システムマネジメントバス).....	99
SPD (既存シリアル検出)	100
Ultra DMA	100
USB (ユニバーサルシリアルバス)	101
VCM(バーチャルチャンネルメモリ)	101
ZIP ファイル.....	101
トラブルシューティング	102
テクニカルサポート	106

製品の登録.....	109
弊社へのご連絡.....	110

注意事項



Adobe、Adobe のロゴ、Acrobat は Adobe Systems Inc. の商標です。

AMD、AMD のロゴ、Athlon および Duron は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Intel、Intel のロゴ、Intel Celeron, PentiumII, PentiumIII は Intel Corporation. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows のロゴは、米国または他国の Microsoft Corporation の登録商標および商標です。

このマニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的とするために使用されており、各社の登録商標です。

このマニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。この出版物の改訂、必要な変更をする権限は AOpen にあります。製品およびソフトウェアを含めた、このマニュアルでの誤りや不正確な記述については AOpen は責任を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権留保。

AOpen Corp. の書面による許諾がない限り、この文書の一部をいかなる形式や方法でも、データベースや記憶装置への記憶などでも複製はできません。

Copyright(c) 1996-2000, AOpen Inc. All Rights Reserved.

インストールの前に



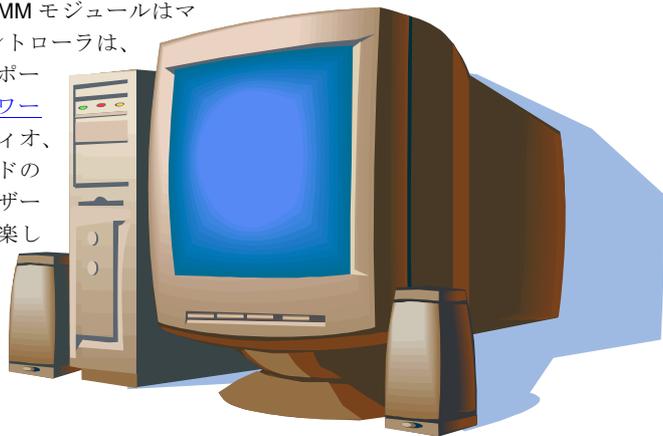
このオンラインマニュアルでは製品のインストール方法が紹介されています。有用な情報は後半の章に記載されています。将来のアップグレードやシステム設定変更に備え、このマニュアルは大切に保管しておいてください。このオンラインマニュアルは [PDF フォーマット](#) で記述されていますので、オンライン表示には **Adobe Acrobat Reader 4.0** を使用するようお勧めします。このソフトは [Bonus CD ディスク](#) にも収録されていますし、[Adobe ウェブサイト](#) から無料ダウンロードもできます。

当オンラインマニュアルは画面上で表示するよう最適化されていますが、印刷出力も可能です。この場合、紙サイズは **A4** を指定し、1 枚に **2 ページ** を印刷するようにしてください。この設定は **ファイル > ページ設定** を選び、そしてプリンタドライバの指示に従ってください。

皆様の地球環境保護へのご協力に感謝いたします。

製品概要

この度は AOpen AX4B / AX4B Pro マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。AX4B / AX4B Pro は [Intel® 845 \(Brookdale\) チップセット](#) 採用、ATX 規格の [Intel® Socket 478](#) マザーボード(以下、M/B)です。高性能チップセット内蔵のマザーボードである AX4B / AX4B Pro は [Intel® Socket 478](#) の [Pentium® 4](#) プロセッサ(Brookdale)、並びに 400MHz [FSB \(フロントサイドバス\)](#) クロックをサポートしています。AGP 機能面では、1.5V AGP インターフェースを対応する 1 本の AGP スロットがあり、4x モードの SBA/データ転送、2x/4x モードのファーストライト機能及び最大 1056MB/秒までのパイプライン分割トランザクションロングバースト転送を実現します。ユーザーの異なる必要に応じ、Intel 845 チップセットのメモリアンターフェースは DDR SDRAM をサポートし、32, 64, 128, 256 及び 512MB DDRAM DIMM モジュールはマザーボードに最大 2 GB まで実装可能です。オンボードの IDE コントローラは、[Ultra DMA 33/66/100](#) モードおよび最大 100MB/s の転送速度をサポートします。さらに、オプションの [コミュニケーションおよびネットワークライザー\(CNR\)](#) カードを利用する事で、単一の基板上でのオーディオ、モデムおよび LAN の設定が自在に行えます。また、オンボードの AD1885 [AC97 CODEC](#) チップセットにより、AX4B / AX4B Pro マザーボードで高性能かつすばらしいサラウンドステレオサウンドをお楽しみいただけます。それでは Aopen AX4B / AX4B Pro マザーボードの全機能をご堪能ください。



製品機能の特長

CPU

Intel® Socket 478 規格の Pentium® 4 プロセッサ(Brookdale) 1.4GHz~2.4GHz+、並びに Socket 478 テクノロジーに設計された 400MHz [FSB \(フロントサイドバス\)](#) クロックをサポートしています。

チップセット

Intel® 845 (Brookdale : ブロックディール)チップセットにより、Intel は Intel® 845 チップセットにフル機能で画期的かつ信頼性の高いグラフィックスソリューションを加えました。Intel® 845 チップセットは、スケーラビリティの高い設計により Intel® Pentium® 4 プロセッサ採用のプラットフォームに最先端の理想的な AGP グラフィックスソリューションを提供します。また高度に統合化された Intel® 845 チップセットの I/O コントローラハブ (ICH2)により、4 個の USB ポートをサポートする 2 個の USB コントローラが備わっています。AC97 オーディオ 5.1 チャンネルおよびソフトウェアオーディオ/モデムテクノロジーにより、845 チップセットは先進の新たな PC 規格の理想的なソリューションを提供します。

拡張スロット

5本の32ビット/33MHz PCI スロット、1本のCNR スロット及び1本のAGP 1x2x4X スロットが含まれます。[PCI](#)ローカルバスのスループットは最大132MB/sです。AX4B / AX4B Pro に装備されている[CNR\(コミュニケーション及びネットワーキングライザー\)](#)スロットにより、オーディオ/モデムカード用のCNR インタフェースがサポートされています。[アクセラレーテッドグラフィックスポート\(AGP\)](#)の仕様ではビデオ表示用のより高速な新機能が含まれています。AGP ビデオカードは最大1056MB/sのビデオデータ転送速度を実現します。AX4B / AX4B Pro マザーボードには4xモードのSBA/データ転送及び2x/4xモードのファーストライト機能をサポートする1.5V AGP 拡張スロットが1本装備されています。AD および SBA 信号用には、AX4B / AX4B Pro は4Xモードをサポートしています。搭載された5本のPCI スロットは全てバスアービトレーション及びデコード機能を有するマスタ PCI スロットであり、あらゆる統合された機能及びLPC バスを提供します。

メモリ

3本の184ピンDDR [SDRAM](#) DIMM ソケットにより、最大2GBの[PC-200/266](#)準拠DDR SDRAM (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)をサポートしています。各ソケットには64, 128, 256, 512MBのDDR SDRAM DIMM モジュールが装着できます。

Ultra DMA 33/66/100 Bus Master IDE

オンボードのPCI Bus Master IDE コントローラにはコネクタ2個が接続され、2チャンネルで4台のIDE装置が使用可能です。サポートされるのは[Ultra DMA](#) 33/66/100、PIO モード3および4さらにBus Master IDE DMA モード5、拡張IDE機器です。

オンボードの AC'97 サウンド

AX4B / AX4B Pro マザーボードは AD 1885 [AC97](#) サウンドチップを採用しています。オンボードオーディオにはサウンド録音・再生システムが完備されています。

1MHz 単位でのクロック調節機能

“1MHz 単位でのクロック調節”機能が BIOS でサポートされています。このユニークな機能により CPU [FSB](#) クロックを 100~248MHz の範囲で 1MHz 単位でのクロック調節が可能である上に、システム機能を最大限引き出す事ができます。

ウォッチドッグタイマー

AOpen “ウォッチドッグタイマー”機能により、システムのオーバークロックに失敗しても 4.8 秒でシステム設定は自動リセットされます。

外部コントローラ付きのダイハード BIOS (AX4B Pro のみ)

[ダイハード BIOS](#) テクノロジーはソフトウェアや BIOS コードを含まない、ハードウェア上の装置で、ウィルス防止効果 100% です。

4 個の USB コネクタ

マウス、キーボード、モデム、スキャナー等の USB インタフェースデバイス用に、2 個のポート計 4 個の [USB](#) コネクタが用意されています。

Dr. LED (アップグレードオプション)

[Dr. LED](#) とは、AX4B / AX4B Pro マザーボード上の 8 個の LED で、遭遇した問題の性質を容易に把握できます。

AGP 保護テクノロジー

AGP 保護テクノロジーの採用により、このマザーボードは AGP の電圧を自動的に検出し、チップセットが焼かれてしまうのを防ぎます。

Dr. ボイス (AXBP Pro のみ)

Dr. ボイスは AX4B Pro マザーボードのすばらしい機能です。これでユーザーは基本ソフトに生じる問題を容易に判別できます。この機能で問題が CPU、メモリモジュール、VGA、PCI アドオンカード、FDD、HDD、キーボード等、コンポーネントやインストールのどの部分かを“音声通知”します。

パワーマネジメント/プラグアンドプレイ

サポートするパワーマネジメント機能は、米国環境保護局 (EPA) の Energy Star 計画の省電力規格をクリアしています。さらに [プラグアンドプレイ](#) 機能により、設定時のトラブルを減少させ、システムがよりユーザーフレンドリーになっています。

ハードウェアモニタ機能

CPU や筐体ファンの状態、CPU 温度や電圧の監視や警告がオンボードのハードウェアモニタモジュールから使用可能です。

拡張 ACPI

Windows® 98/ME/NT/2000 シリーズ互換のACPI規格に完全準拠し、ソフト・オフ、STR (サスペンドトゥーRAM, S3), STD (ディスクサスペンド, S4)機能をサポートしています。

スーパーマルチ I/O

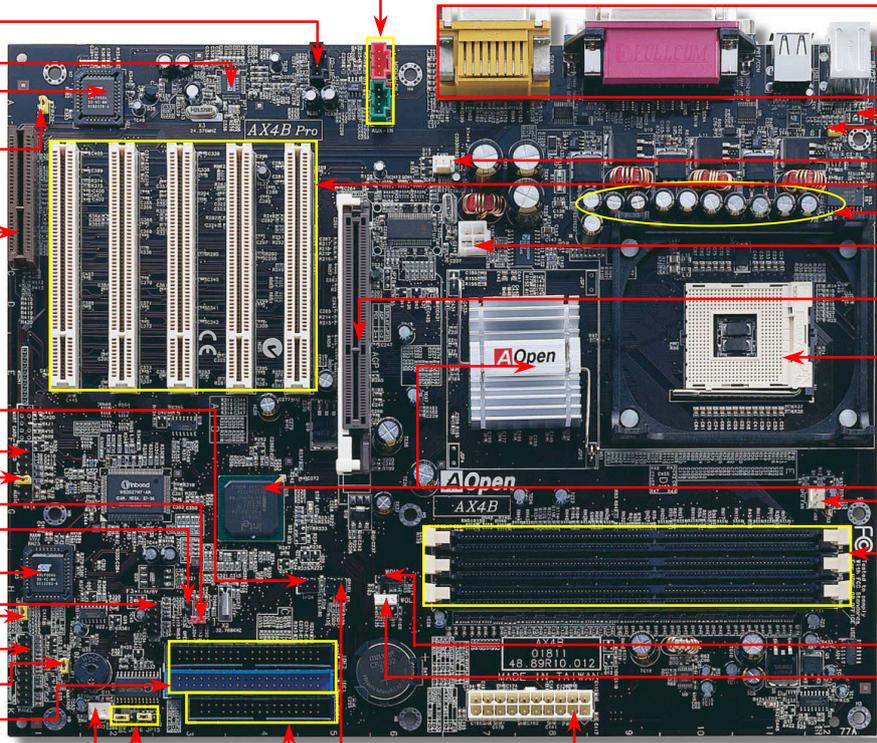
UART 互換高速シリアルポート 2 個、EPP および ECP 互換の平行ポート 1 個が装備されています。UART は COM1 から赤外線モジュールに接続してワイヤレス転送にも使用可能です。

クイックインストールの手順

このページにはシステムをインストールする簡単な手順が説明されています。以下の手順に従ってください。

1. [CPUおよびファンのインストール](#)
2. [システムメモリ \(DIMM\)のインストール](#)
3. [フロントパネルケーブルの接続](#)
4. [IDE およびフロッピーケーブルの接続](#)
5. [ATX 電源ケーブルの接続](#)
6. [バックパネルケーブルの接続](#)
7. [電源の投入および BIOS 設定の初期値のロード](#)
8. [CPU クロックの設定](#)
9. 再起動
10. 基本ソフト(Windows 98 など)のインストール
11. [ドライバ及びユーティリティのインストール](#)

マザーボード全体図



緑 : AUX 入力コネクタ
 赤 : モデム入力コネクタ
 黒 : CD 入力コネクタ

オンボード AC'97 CODEC
 ダイハード BIOS
 (AX4B Pro のみ)

JP30 によるダイハード
 BIOS の設定ジャンパー
 (AX4B Pro のみ)

CNR 拡張スロット

IrDA コネクタ
 Dr. LED コネクタ
 フロントオーディオコネク
 JP14 CMOS クリアジャンパー
 ケース開放センサーコネクタ

4Mbit フラッシュ ROM
 第二 USB コネクタ
 JP2 ジャンパー(スピーカー)
 フロントパネルコネクタ
 JP1ジャンパー(ブザー)
 ATA/33/66/100
 IDE コネクタ 2個
 FAN3 コネクタ

JP15 と 16 による Dr.ボイスの言語設
 定ジャンパー (AX4B Pro のみ)

FDD コネクタ

GPO1 コネクタ

PC99 カラーコード準拠
 バックパネル

リセット可能なヒューズ
 JP28 のキーボード/マウスウェ
 イクアップ機能の設定ジャンパー
 FAN2 コネクタ

32 ビット PCI 拡張スロット 5本
 2200 μ F 低 ESR コンデンサー
 4 ピン 12V. ATX 電源コネクタ

AGP 4x 拡張スロット
 (1.5V AGP カード用)
 478 ピン CPU ソケット、電圧及び
 クロックの自動検出機能付き、
 Intel® Pentium® 4 1.4~2.4GHz+
 CPUをサポート

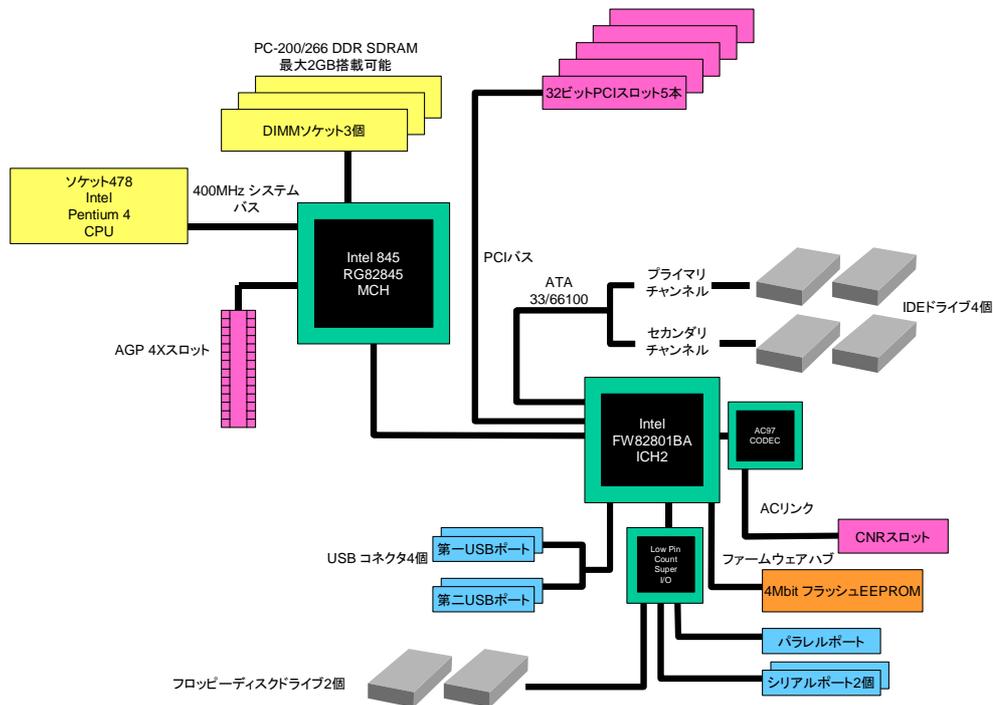
Intel® 845 チップセット(Brookdale)
 CPU ファンコネクタ、ハードウ
 ェアモニター機能付き
 184 ピン DIMM ソケット 3 個、
 PC-200/266 DDR SDRAM をサポ
 ート、最大 2 GBまで搭載可能

WOM コネクタ
 WOL コネクタ

ATX 電源コネクタ



ブロックダイアグラム



ハードウェアのインストール

この章ではマザーボードのジャンパー、コネクタ、ハードウェアデバイスについて説明されています。

 **注意:** 静電放電 (ESD) の発生がプロセッサ、ハードディスク、拡張カード及び他の周辺デバイスに損害を与える可能性がありますので、各デバイスのインストール作業を行う前に、常に、下記の注意事項に気を付けるようにして下さい。

1. 各コンポーネントは、そのインストール直前まで静電保護用のパッケージから取り出さないで下さい。
2. コンポーネントを扱う際には、あらかじめアース用のリスト・ストラップを手首にはめて、コードの先はパソコンケースの金属部分に固定して下さい。リスト・ストラップがない場合は、静電放電を防ぐ必要のある作業中は常に、身体がパソコンケースに接触しているようにして下さい。

“オプション”及び“アップグレードオプション”について...

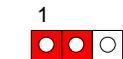
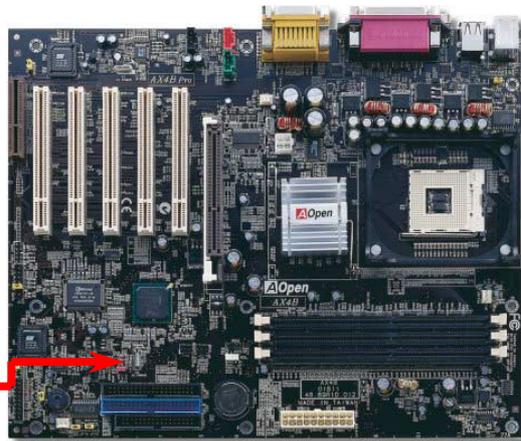
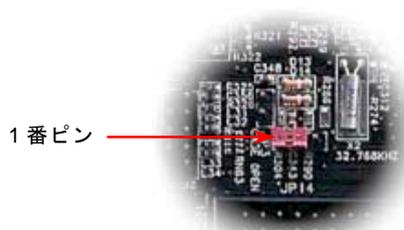
このオンラインマニュアルをご覧になってコンピュータシステムを組み上げる際、若干の機能は“オプション”,または“アップグレードオプション”となっている事に気づかれるでしょう。AOpen 製マザーボードには多くのすばらしく強力な機能が備わっているにもかかわらず、場合によってはユーザーがそれらを必要としないケースもあります。従いまして、幾つかの主要機能はユーザーがオプションとして選択できるようにしています。その中には、ユーザー独自でアップグレードできるオプション機能を“アップグレードオプション”と称し、ユーザー独自でアップグレードできないものを“オプション”と称します。必要な場合には、地元の販売店またはリセラーから“アップグレードオプション”コンポーネントが購入できる上に、AOpen 公式ウェブサイト www.aopen.co.jp から詳細情報も入手可能です。



JP14 による CMOS データのクリア

CMOS をクリアする事でシステムの初期値設定に戻ることができます。CMOS のクリア手順は下記の通りです。

1. システムの電源を切り、AC パワーコードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを取り外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. 1-2 番ピンをショートして JP14 を通常の設定に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差し戻します。



正常動作の場合
(初期値設定)



CMOS クリア
の場合

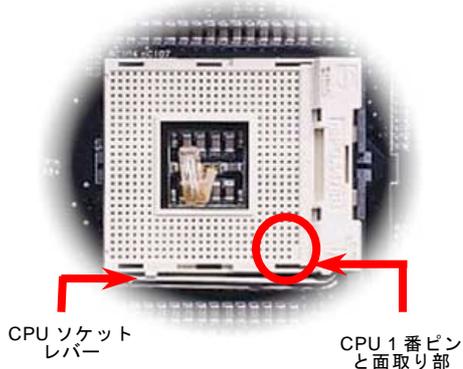
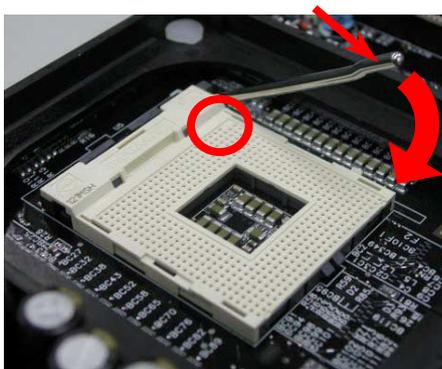
ヒント: CMOS クリアはどんな時に必要?

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

CPU のインストール

このマザーボードは Intel® Pentium 4 ソケット 478 仕様 CPU(Brookdale)をサポートしています。CPU をソケットに差すときは CPU の方向に注意してください。

1. CPU ソケットレバーを 90 度引き起こします。
2. ソケットの 1 番ピンの位置および CPU 上部の黒い点や面取り部を確認します。1 番ピンおよび面取り部を合わせます。この方向で CPU をソケットに差します。



CPU ソケット
レバー

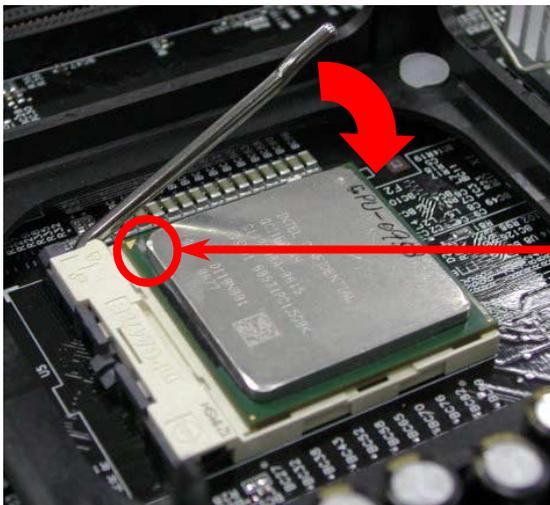
CPU 1 番ピン
と面取り部



CPU 面取り部

注意: これらの図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

3. CPU ソケットレバーを水平に戻しますと、CPU のインストールは完了です。



CPU 面取り部

注意: CPU ソケットの 1 番ピンと CPU の面取り部を合わせてインストールしないと、CPU に損傷を与える可能性があります。

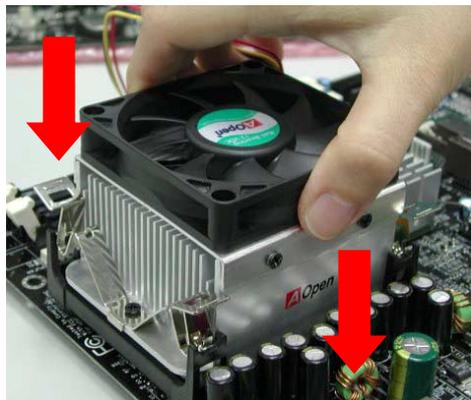
注意: このソケットはインテルが開発した最新 CPU パッケージである Micro-FC-PGA2 をサポートしていますので、他のパッケージ CPU を挿入しないようご注意ください。

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

CPU ファンのインストール

このマザーボードは出荷時に CPU ソケットにリテンションモジュールが付属されています。よりよい放熱効果を果たすため、下図のように、リテンションモジュールに Aopen が特別に設計したヒートシンクを装着することをお勧めいたします。下図のように CPU ファンを正しくインストールしてください。

1. クリップが四つの角に正しく合わせるよう、ゆっくりと CPU ファンをリテンションモジュールに装着します。

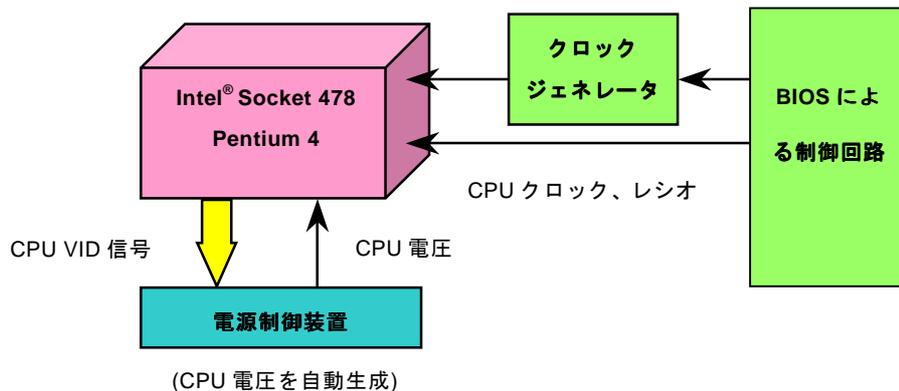


2. 四つのクリップを一つずつ押して CPU ファンを装着します。



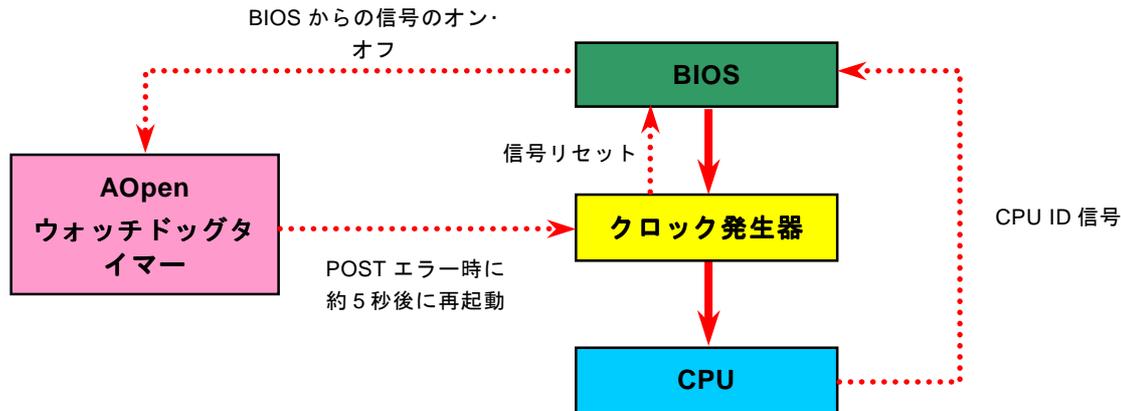
CPU ジャンパーレス設計

CPU VID 信号およびSMBusクロックジェネレーターにより、CPU 電圧の自動検出が可能となり、ユーザーは[BIOS セットアップ](#)を通して CPU クロックを設定できますから、ジャンパーやスイッチ類は不要となります。これで Pentium 中心のジャンパーレス設計に伴う不便は解消されます。CPU 電圧検出エラーの心配もありません。



AOpen “ウォッチドッグタイマー”

このマザーボードには、オーバークロック用に AOpen によるユニークで便利な機能が備わっています。システム電源を入れると、BIOS は先回のシステムの [POST](#) 状況をチェックします。問題なければ、BIOS は即座に“ウォッチドッグタイマー”機能を起動し、CPU [FSB](#) クロックを BIOS に保存されているユーザー設定値に設定します。システムが BIOS POST の段階で起動失敗した場合は、“ウォッチドッグタイマー”はシステムをリセットし、5 秒後に再起動します。この時 BIOS は CPU のデフォルトクロックを検出し、再度 POST を行います。この特別な機能により、システムハングアップ時でもケースカバーを開けて CMOS クリアのジャンパー操作を行わずに、より高性能なシステムへのオーバークロックが可能となっています。



CPU コア電圧のフルレンジ調整機能 (AX4B Pro のみ)

この機能はオーバークロック用です。CPU コア電圧が 1.10V から 1.85V まで設定可能です。しかし、このマザーボードは CPU VID 信号も自動的に検出し、適切な CPU コア電圧を生成することもできます。

CPU クロックの設定

BIOS セットアップ > クロック/電圧コントロール > CPU クロック設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計で、CPU クロックは BIOS セットアップから設定できますので、ジャンパースイッチ類は不要です。

CPUレシオ	8x, 9x, 10x,...22x, 23x, 24x
CPU FSB	100~248MHz



ヒント: オーバークロックにより、システム起動に失敗してフリーズした場合は、<Home>キーを押すだけで初期値設定(433MHz)に戻ることができます。あるいは、AOpen "Watch Dog Timer"がシステムを再起動するのを五秒間待ってれば、システムがハードウェアを再び自動検査します。

コアクロック = CPU [FSB](#) クロック * CPU レシオ

PCI クロック = CPU FSB クロック / クロックレシオ

[AGP](#) クロック = PCI クロック x 2

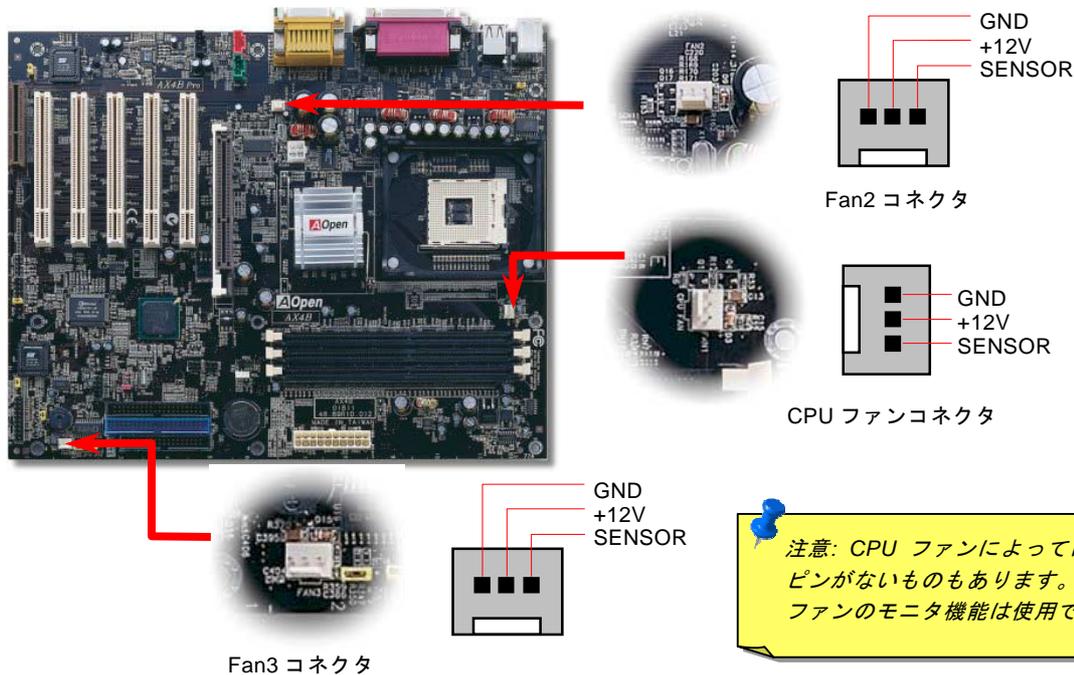
CPU	CPUコア クロック	FSB クロック	システム バス	レシオ
Pentium 4 1.4G	1400MHz	100MHz	400MHz	14x
Pentium 4 1.5G	1500MHz	100MHz	400MHz	15x
Pentium 4 1.6G	1600MHz	100MHz	400MHz	16x
Pentium 4 1.7G	1700MHz	100MHz	400MHz	17x
Pentium 4 1.8G	1800MHz	100MHz	400MHz	18x
Pentium 4 1.9G	1900MHz	100MHz	400MHz	19x
Pentium 4 2.0G	2000MHz	100MHz	400MHz	20x
Pentium 4 2.2G	2200MHz	100MHz	400MHz	22x
Pentium 4 2.4G	2400MHz	100MHz	400MHz	24x

警告: Intel® 845 チップセットは、最大 400MHz(100MHz*4) システムバス及び 66MHz AGP クロックをサポートしています。それより高いクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

警告: 加熱による CPU への損傷を防ぐため、このマザーボードにシステムによる自動シャットダウン設計が特別に設けられています。THERMTRIP 回路設計のあるこのマザーボードは CPU 温度が 4 秒間 135 度以上を超えたら、システムは自動的に電源を切断します。

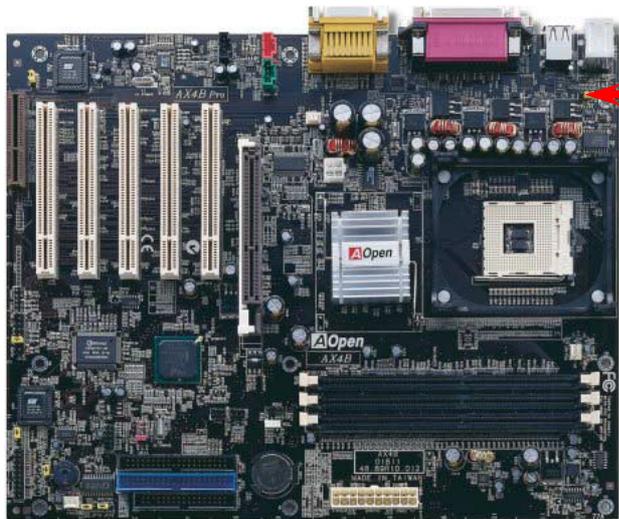
CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き)

CPU ファンのケーブルは 3 ピンの **CPU FAN** コネクタに差し込んでください。筐体ファンを使用される場合は、ケーブルを **System Fan (FAN2)** または **FAN3 (AUX Fan)** コネクタに差し込むことも可能です。



JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ機能の設定ジャンパー

このマザーボードはキーボード/マウスのウェイクアップ機能を提供しています。この機能のオン・オフには JP28 を使用します。この機能により、キーボードやマウスでシステムをサスペンドモードから再開することができます。工場出荷時のデフォルト設定は“オフ”(1-2)となっており、ジャンパーを 2 番と 3 番ピンに設定することにより、この機能をオンにすることが可能です。



JP28 によるキーボード/
マウスウェイクアップ機能



オフ

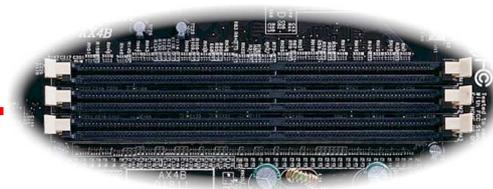
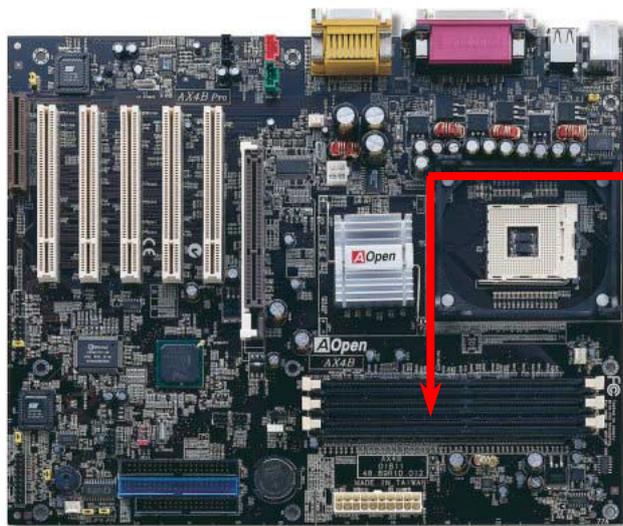
(初期値)



オン

DIMM ソケット

このマザーボードには 184 ピン [DIMM ソケット](#) が 3 本装備されていますので、[PC200](#) または [PC266](#) メモリが最大 2GB まで搭載可能です。ECC 及び Non-ECC DDR SDRAM 両方がサポートされていますが、両方とも DIMM にインストールすることはできません。さもないと、メモリソケットや SDRAM モジュールに重大な損傷を与える可能性があります。



DIMM1
DIMM2
DIMM3

警告： DIMM2 及び DIMM3 ソケットにダブルサイドの DDR SDRAM を同時に装着できないことをご注意ください。既にダブルサイドの DDR SDRAM を二枚装着してある場合に、システムは DIMM2 及び DIMM3 にある二枚の DDR SDRAM から、それぞれシングルサイドのメモリ容量しか検出することができません。しかしながら、上記のようなメモリの装着方法を避けるようお勧めいたします。さもないと、メモリソケットや SDRAM モジュールに重大な損傷を与えることとなります。

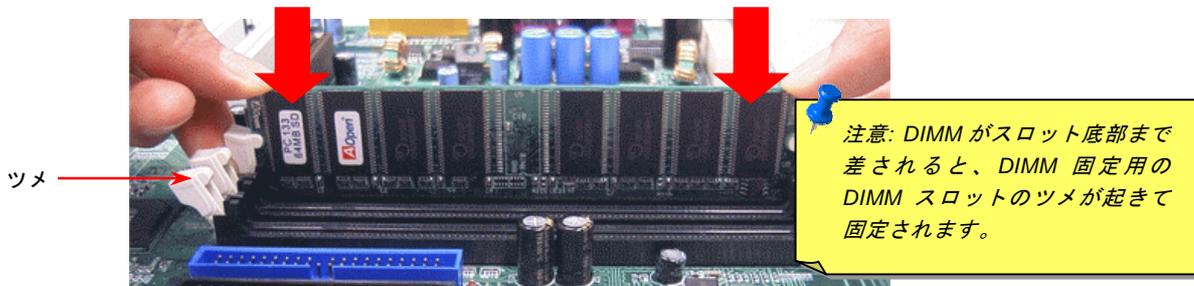
メモリモジュールのインストール方法

メモリのインストールには下記のステップに従います

1. DIMM モジュールのピン側を下にし、下図のようにソケットを合わせます。

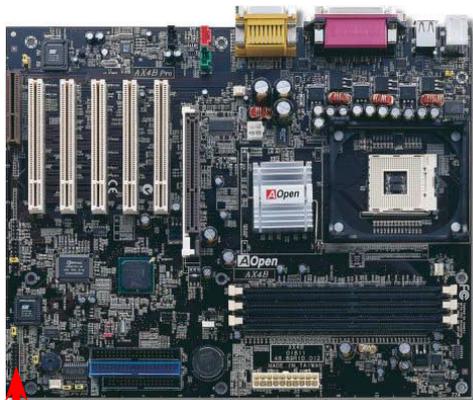


2. DIMM ソケットにモジュールを両手でまっすぐ下方に DIMM モジュールが止まるまで差し込みます。



3. 他の DIMM モジュールも同様にステップ 2 の方法を繰り返してインストールします。

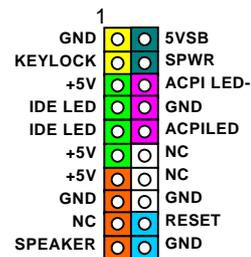
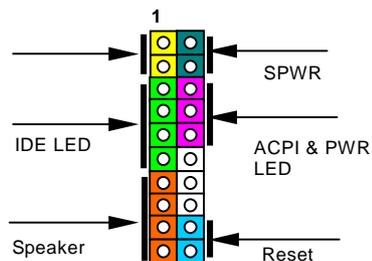
フロントパネルコネクタ



電源 LED、キーロック、スピーカー、電源、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差ししてください。BIOS セットアップで“Suspend Mode” の項目をオンにした場合は、ACPI 及び電源の LED がサスペンドモード中に点滅します。

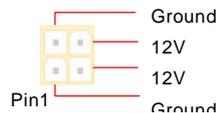
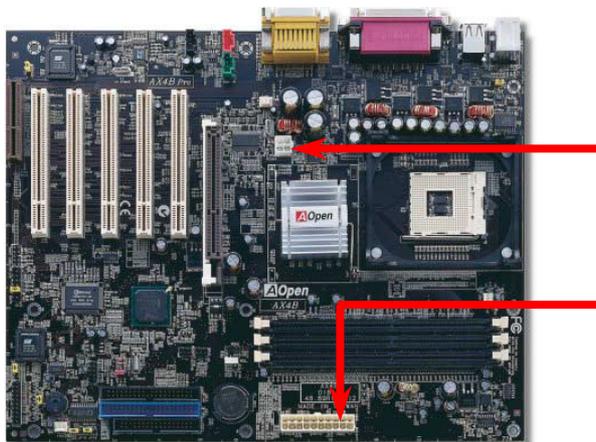
お持ちの ATX 筐体における電源スイッチのケーブルを確認してください。これはフロントパネルから出ている 2-ピンメスコネクタです。このコネクタを SPWR と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。

サスペンドタイプ	ACPI LED
パワーオンサスペンド(S2) 或いは サスペンドトゥーRAM (S3)	秒毎に点滅します
ハードディスクサスペンド (S4)	LED は消されます

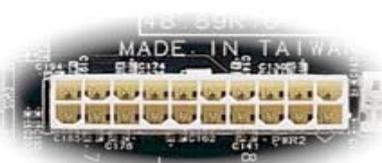


ATX 電源コネクタ

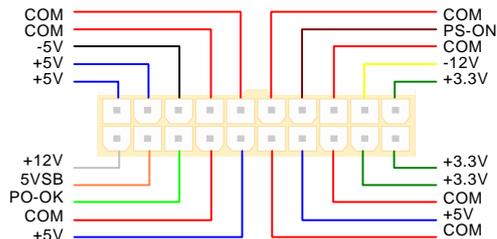
下図のように、このマザーボードには 20 ピン及び 4 ピン ATX 電源コネクタ各 1 個が装備されています。差し込む際は向きにご注意ください。20 ピンのコネクタに接続する前に、まず 4 ピン 12V 用コネクタに接続し、Pentium 4 システム用の電源を使用するようご注意ください。



4 ピン 12V ATX 電源コネクタ



20 ピン電源コネクタ



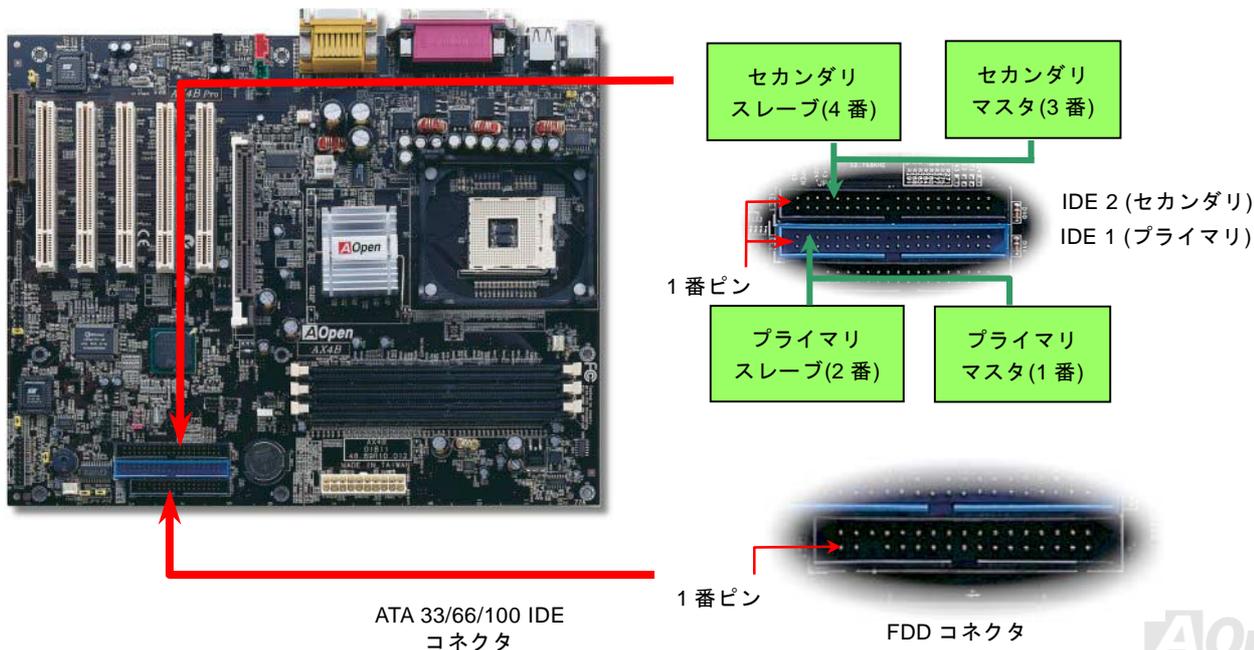
AC 電源自動回復機能

従来の ATX システムでは AC 電源が切断された場合、電源オフ状態からの再開となります。この設計は、無停電電源を使用しない場合に、常に電源オン状態を維持することが要求されるネットワークサーバーやワークステーションにとっては不都合です。この問題を解決するため、当マザーボードには電源自動回復機能が装備されています。



IDE 及びフロッピーコネクタの接続

34 ピンフロッピーケーブルと 40 ピン IDE ケーブルをそれぞれフロッピーコネクタ FDD および IDE コネクタに接続します。確認しやすいため、IDE1 コネクタは青い色となっています。1 番ピンの向きにご注意ください。間違えますとシステムに支障を来す恐れがあります。



IDE1 はプライマリチャンネル、IDE2 はセカンダリチャンネルとも呼ばれます。各チャンネルは 2 個の IDE デバイスが接続できますので、合計 4 個のデバイスが使用可能です。これらを協調させるには、各チャンネル上の 2 個のデバイスをマスタおよびスレーブモードに指定する必要があります。ハードディスクまたは CDROM のいずれでも接続可能です。モードがマスタかスレーブかは IDE デバイスのジャンパー設定に依存しますので、接続するハードディスクまたは CDROM のマニュアルをご覧ください。

このマザーボードは [ATA33](#)、[ATA66](#) および [ATA100](#) の IDE デバイスをサポートしています。下表には IDE PIO 転送速度および DMA モードが列記されています。IDE バスは 16 ビットで、各転送が 2 バイト単位で行われることを意味します。

モード	クロック周期	クロック カウント	サイクル時間	データ転送速度
PIO mode 0	30ns	20	600ns	$(1/600\text{ns}) \times 2\text{byte} = 3.3\text{MB/s}$
PIO mode 1	30ns	13	383ns	$(1/383\text{ns}) \times 2\text{byte} = 5.2\text{MB/s}$
PIO mode 2	30ns	8	240ns	$(1/240\text{ns}) \times 2\text{byte} = 8.3\text{MB/s}$
PIO mode 3	30ns	6	180ns	$(1/180\text{ns}) \times 2\text{byte} = 11.1\text{MB/s}$
PIO mode 4	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
DMA mode 0	30ns	16	480ns	$(1/480\text{ns}) \times 2\text{byte} = 4.16\text{MB/s}$
DMA mode 1	30ns	5	150ns	$(1/150\text{ns}) \times 2\text{byte} = 13.3\text{MB/s}$
DMA mode 2	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
ATA 33	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 33\text{MB/s}$
ATA 66	30ns	2	60ns	$(1/60\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 66\text{MB/s}$
ATA100	20ns	2	40ns	$(1/40\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 100\text{MB/s}$

ヒント:

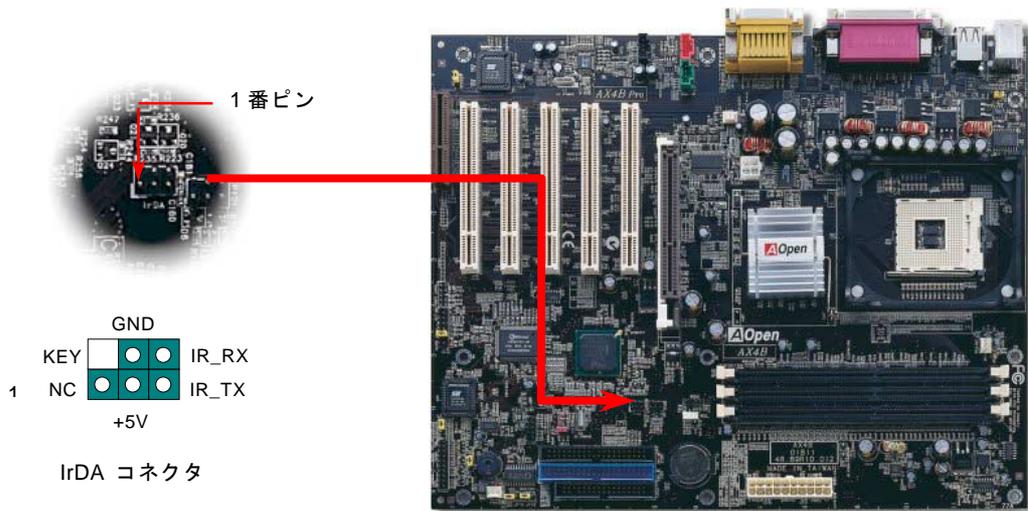
1. 信号の品質確保のため、一番離れた側の端子をマスタとし、提案された順序にしたがって新たにデバイスをインストールしてください。上図をご参考になしてください。
2. Ultra DMA 66/100 ハードディスクの機能を最大限引き出すには、Ultra DMA 66/100 専用 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

警告: IDE ケーブルの規格は最大 46cm (18 インチ) です。ご使用のケーブルの長さがこれを超えないようご注意ください。

IrDA コネクタ

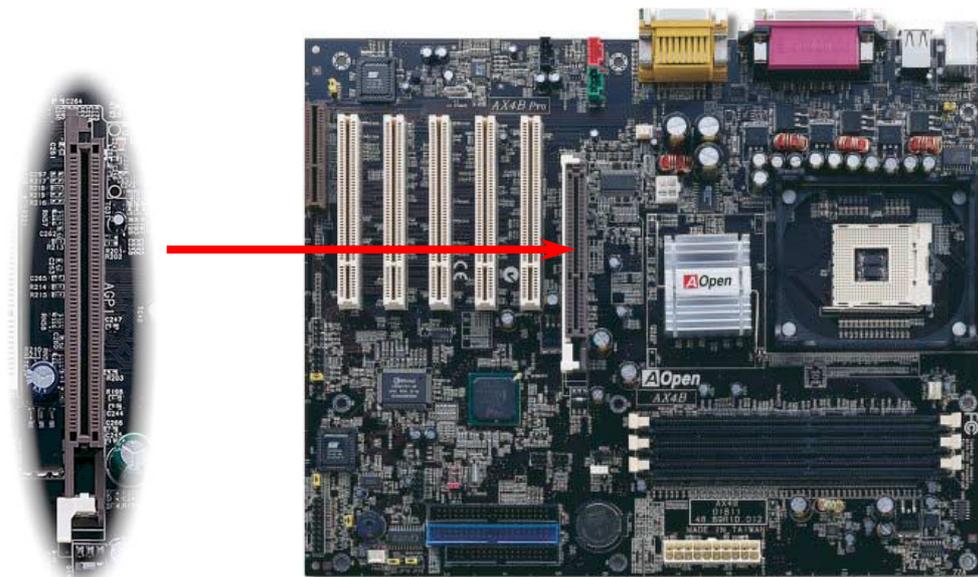
IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、Laplink や Windows95 Direct Cable Connection 等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDA デバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2m 以内)および ASK-IR (56Kbps)をサポートします。

IrDA コネクタに赤外線モジュールを差し込んで、BIOS セットアップの UART2 モードで正しく設定します。IrDA コネクタを差す際は方向にご注意ください。



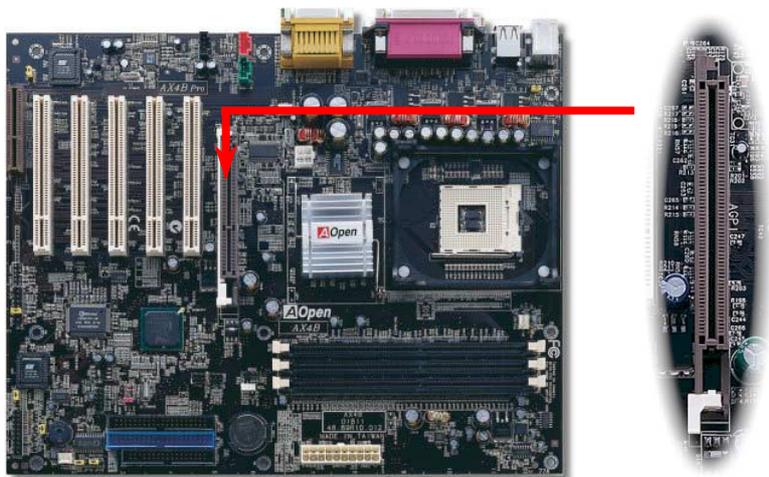
AGP (アクセラレーテッドグラフィックスポート) 拡張スロット

AX4B / AX4B Pro マザーボードは [AGP 4x](#) スロットを 1 本装備しています。AGP 1x2x4x は高性能 3D グラフィックス用に設計されたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書きのみをサポートし、1 組のマスタ/スレーブのみを対象にします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、データ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ です。AGP はさらに AGP 4x モードへ移行中で、転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{bytes} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ です。この AGP 拡張スロットは 1.5V AGP カードしかサポートしないことをご確認ください。



AGP 保護テクノロジー

AOpen の優秀なる研究開発能力及び特別に開発された電路により、AX4B / AX4B Pro は斬新なるテクノロジーで AGP カードの過電圧によるマザーボードへの損害を防ぎます。AGP 保護テクノロジーの採用により、このマザーボードは AGP の電圧を自動的に検出し、チップセットが焼かれてしまうのを防ぎます。もし intel i845 がサポートしていない 3.3V の電圧で AGP カードをインストールする場合に、LED3 は点灯し、過電圧による可能な損傷を知らせてくれます。ご購入の AGP カードのベンダーに連絡し、さらなるサポートをお求めください。



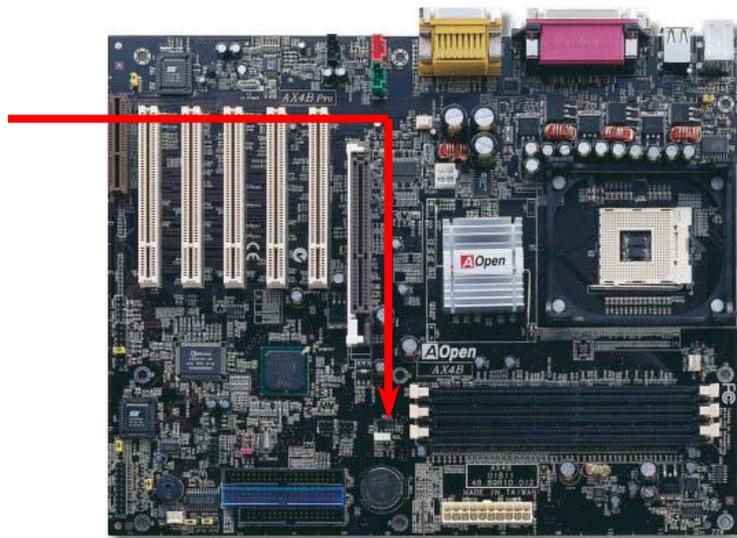
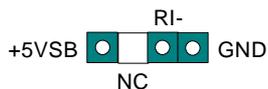
警告: intel i845 がサポートしていない 3.3V の電圧で AGP カードをインストールする場合に、LED3 は点灯し、過電圧による可能な損傷を知らせてくれます。

WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ

このマザーボードには内蔵モデムカードおよび外付けモデムの双方をサポートするウェイクオンモデム機能が備わっています。内蔵モデムカードはシステム電源オフの際、電力消費はゼロなので内蔵モデムの使用をお勧めします。内蔵モデムを使用するには、モデムカードの RING コネクタからの 4 ピンケーブルをマザーボードの WOM コネクタに接続してください。

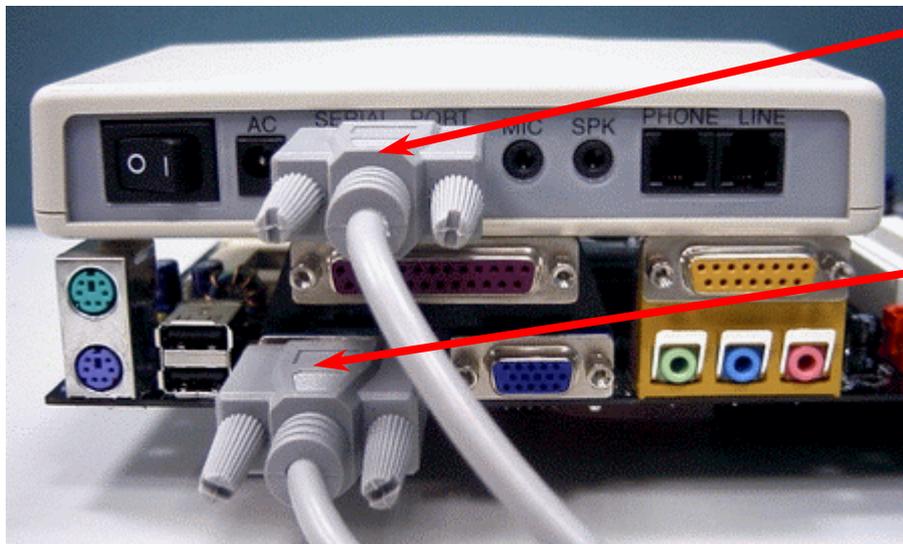
1 番ピン

WOM コネクタ



外付けモデムによる WOM 機能

従来のグリーン PC のサスペンドモードはシステム電源供給を完全にはオフにはせず、外付けモデムでマザーボードの COM ポートを活性化し、動作に復帰します。



シリアルポート
(モデム側)

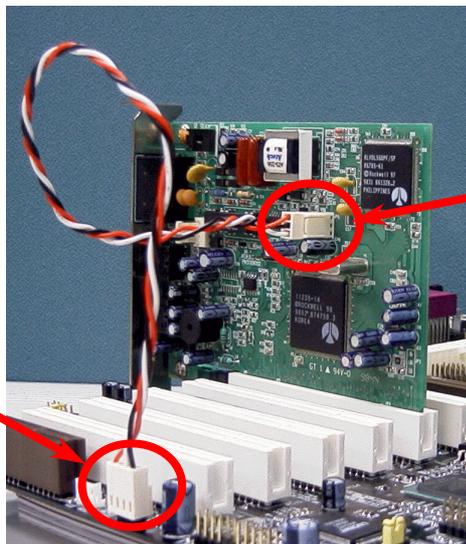
シリアルポート
(マザーボード側)

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

内蔵モデムカードによる WOM 機能

ATX のソフトパワーオン・オフ機能により、システムを完全にオフにしても着信時に自動的にウェイクアップして、留守電またはファックスの送受信を行うことが可能です。システム電源が完全にオフであるかどうかはパワーサプライのファンがオフかどうかで判断できます。外付けモデムと内蔵モデムカードの双方がモデムウェイクアップ機能をサポートできますが、外付けモデムを使用する際は、モデム電源をオンにしておく必要があります。

WOM コネクタ
(マザーボード側)

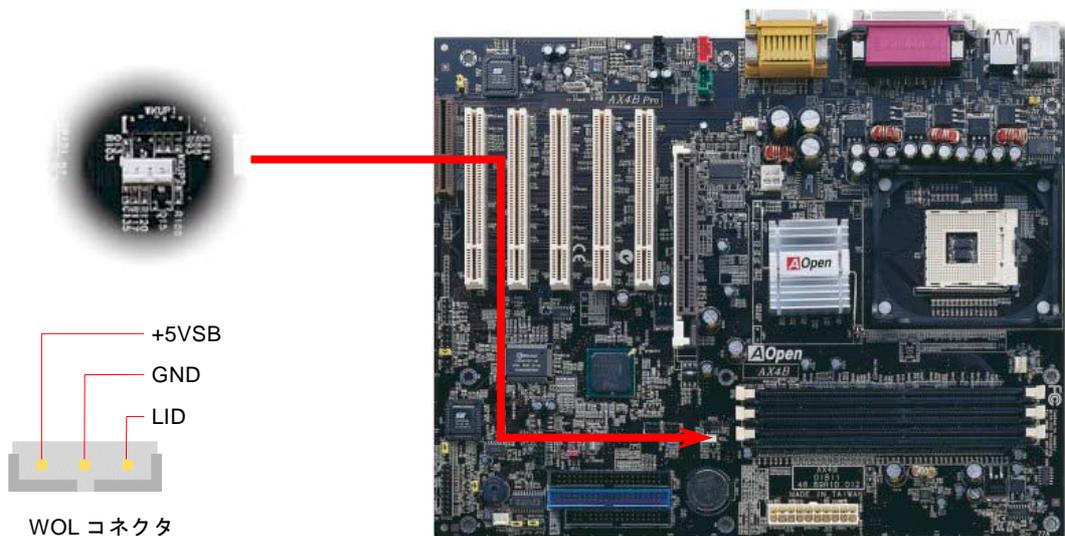


WOM コネクタ
(モデムカード側)

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

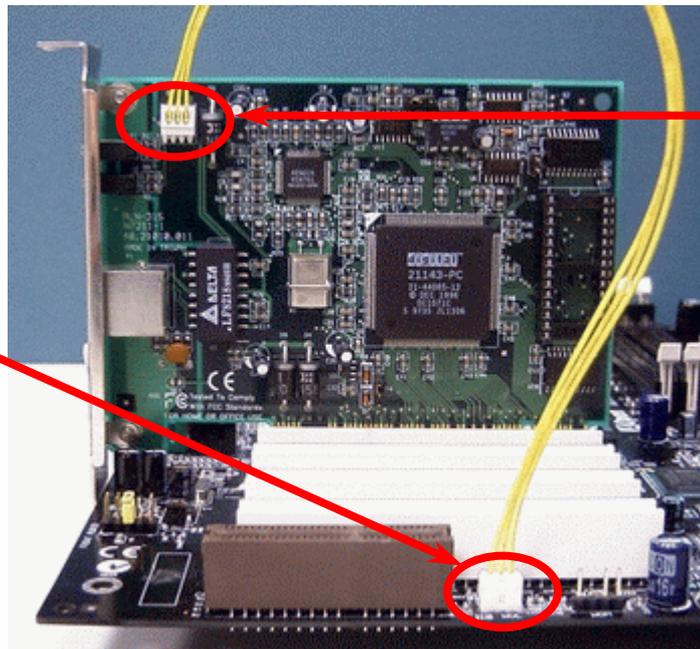
WOL (ウェイクオンLAN) 機能

LAN ウェイクアップ機能を使用するには、この機能をサポートするチップセット搭載のネットワークカードが必要である上に、ケーブルで LAN カードをマザーボードの WOL コネクタに接続してください。システム判別情報(おそらく IP アドレス)はネットワークカードに保存され、イーサネットには多くのトラフィックが存在するため、システムをウェイクアップさせる方法は ADM 等のネットワークソフトウェアを使用することが必要となります。この機能を使用するには、LAN カードへの ATX からのスタンバイ電流が最低 600mA 必要であることにご注意ください。



WOL コネクタ

WOL コネクタ
(マザーボード側)

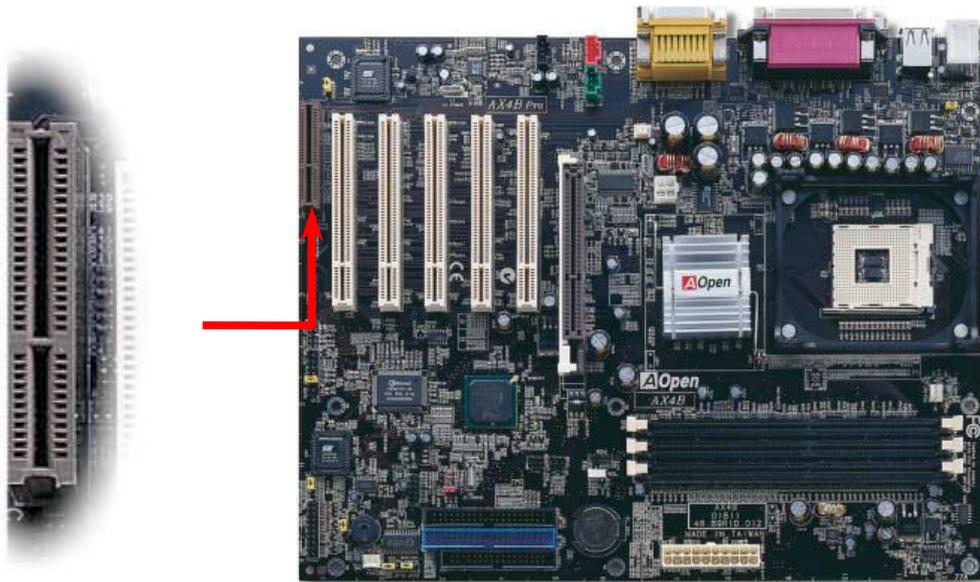


WOL コネクタ
(イーサネットカード側)

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

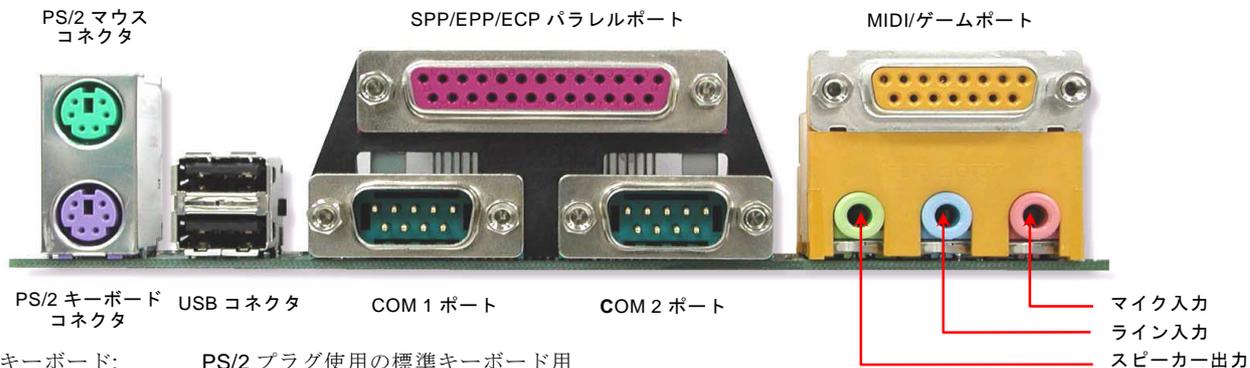
CNR(コミュニケーション及びネットワークライザー)拡張スロット

CNR は **AMR (オーディオ/モデムライザー)** に取って代わって V.90 アナログモデム、多チャンネルオーディオ、テレフォニーをネットワーク環境でサポートするライザー仕様です。CPU の計算能力の向上に伴い、デジタル処理操作をメインチップセットに組み込んで CPU パワーの一部が利用できるようになりました。コード変換 (**CODEC**)回路は別の独立した回路設計が必要ですので **CNR** カード上に組み込まれます。このマザーボードにはオンボードでサウンド CODEC が装備されて (JP12 でオフにもできます) いますが、モデム機能のオプションとして予備の **CNR** スロットも用意されています。もちろん、引き続き PCI モデムカードもご使用になれます。



PC99 カラーコード準拠バックパネル

オンボードの I/O デバイスは PS/2 キーボード、PS/2 マウス、シリアルポート、COM1 と COM2、プリンタ、[4 個の USB](#)、AC97 サウンドコーデック、ゲームポートです。下図は筐体のバックパネルから見た状態です。

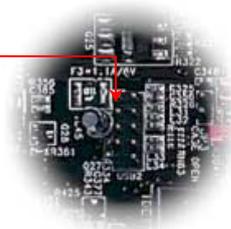


PS/2 キーボード:	PS/2 プラグ使用の標準キーボード用
PS/2 マウス:	PS/2 プラグ使用の PC-マウス用
USB ポート:	USB デバイスの接続用
パラレルポート:	SPP/ECP/EPP プリンタの接続用.
COM1/COM2 ポート:	ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアルデバイスの接続用
VGA コネクタ:	PC モニタとの接続用
スピーカー出力:	外部スピーカー、イヤホン、アンプへの出力接続用
ライン入力:	CD/テーププレーヤー等からの信号源からの入力接続用
マイク入力:	マイクロホンからの入力接続用
MIDI/ゲームポート:	15-ピン PC ジョイスティック、ゲームパッドまたは MIDI デバイスへの接続用

第二 USB ポートをサポート

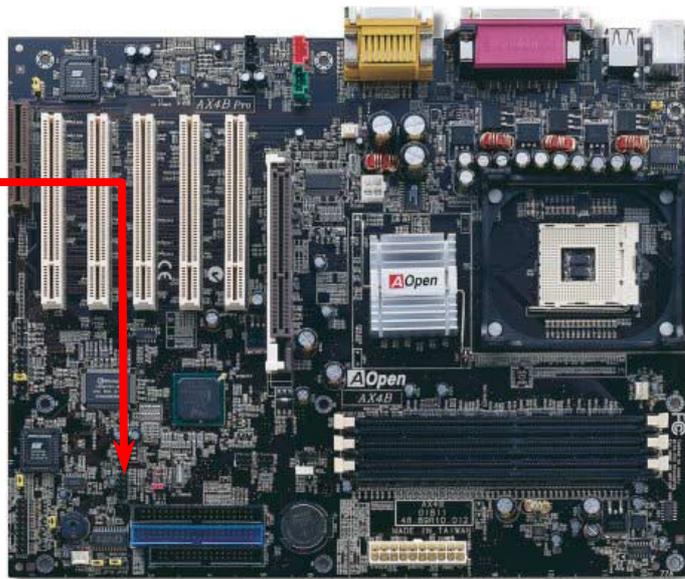
このマザーボードには 4 個の [USB](#) コネクタがあり、マウス、キーボード、モデム、プリンタ等の USB 機器が接続できます。2 個のコネクタは、PC99 バックパネルにあります。適当なケーブルにより、他の USB コネクタをバックパネルまたはケースのフロントパネルに接続できます。

1 番ピン



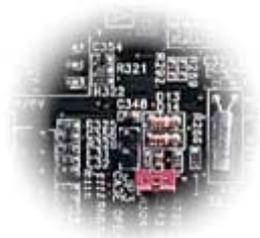
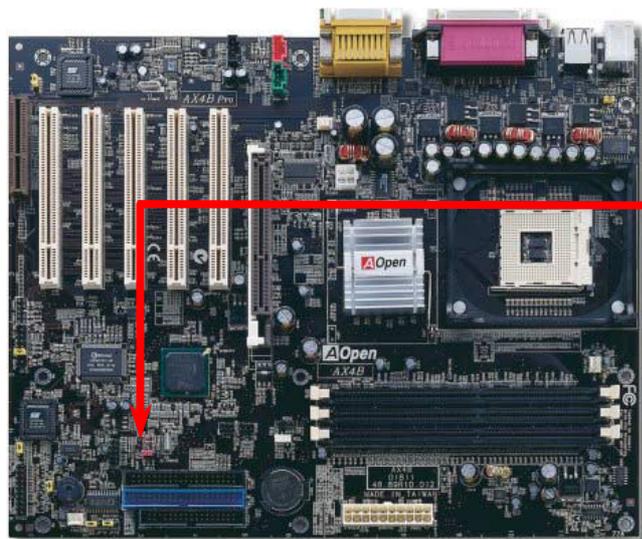
USB2 コネクタ

	1	2	
USBPWR0	●	●	USBPWR0
USB_FP_P0-	●	●	USB_FP_P1-
USB_FP_P0+	●	●	USB_FP_P1+
GND	●	●	GND
KEY	□	●	USB_FP_OC0



ケース開放センサーコネクタ

この“CASE OPEN”コネクタはケース開放監視機能を提供します。この機能を使用するのは、システム BIOS からこの機能を有効に設定してください。そしてこのコネクタをケースのセンサーに接続してください。光やケースの開放によってセンサーが起動されたら、システムはビービーの警告音声で知らせてくれます。この有用な機能は先進的なケースにしか使えないことにご注意ください。センサーを購入し、ご使用のケースに取り付けてこの機能を有効に利用することもできます。

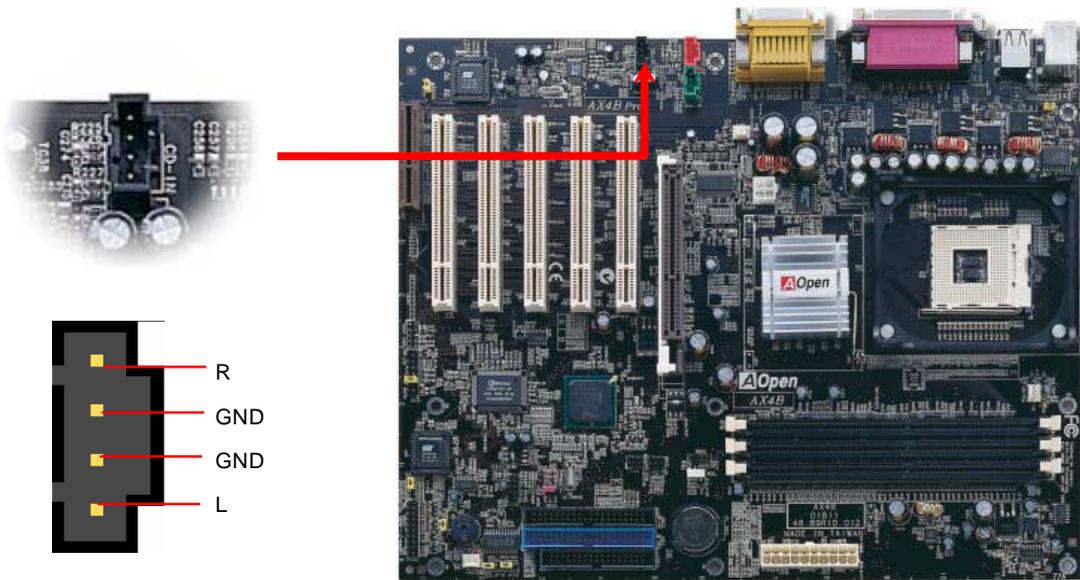


- 1 ● SENSOR
- 2 ● GND

ケース開放監視センサー
コネクタ

CD オーディオコネクタ

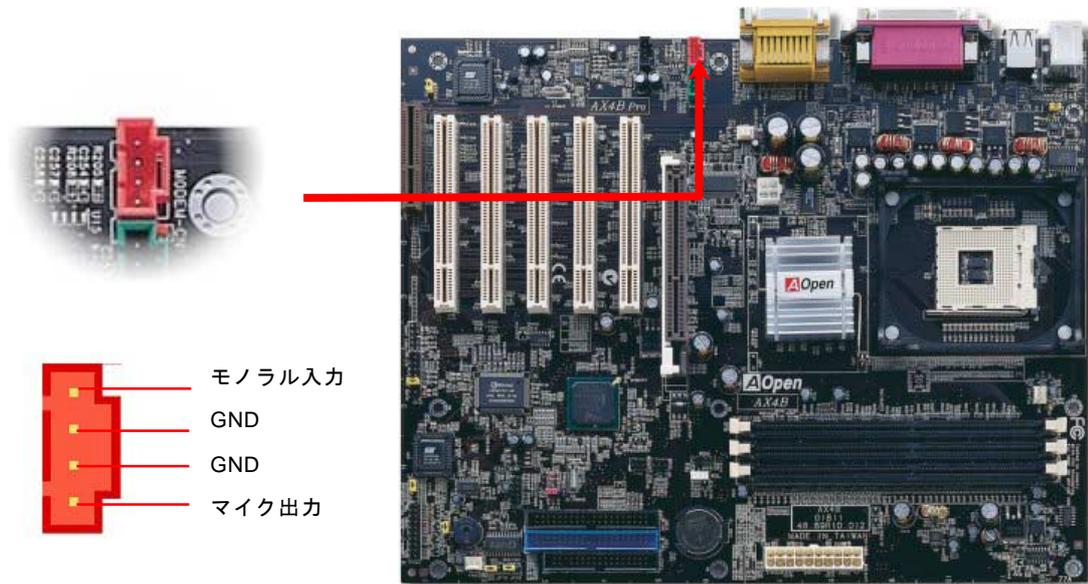
このコネクタはCDROMまたはDVDドライブからのCDオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



CD 入力コネクタ

モデムオーディオコネクタ

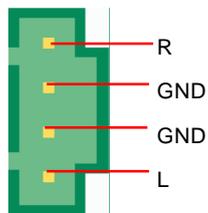
このコネクタは内蔵モデムカードからのモノラル入力/マイク出力ケーブルをオンボードサウンド回路に接続するのに使います。1-2 ピンはモノラル入力用で、3-4 ピンはマイク出力用です。なお、この種のコネクタにはまだ標準規格はないですので、このコネクタを採用する内蔵モデムカードが極一部に限られたことにご注意ください。



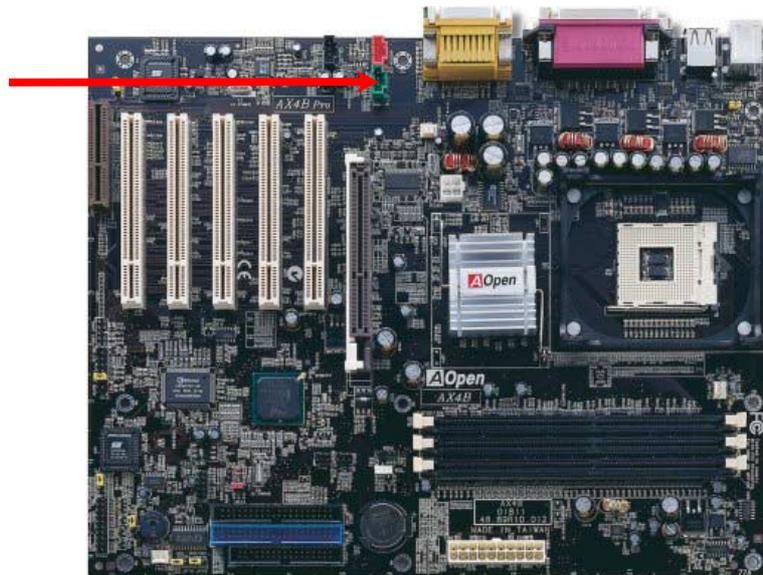
モデム入力コネクタ

AUX 入カコネクタ

この緑色のコネクタは MPEG カードからの MPEG オーディオケーブルをオンボードサウンドへ接続するのに使用します。

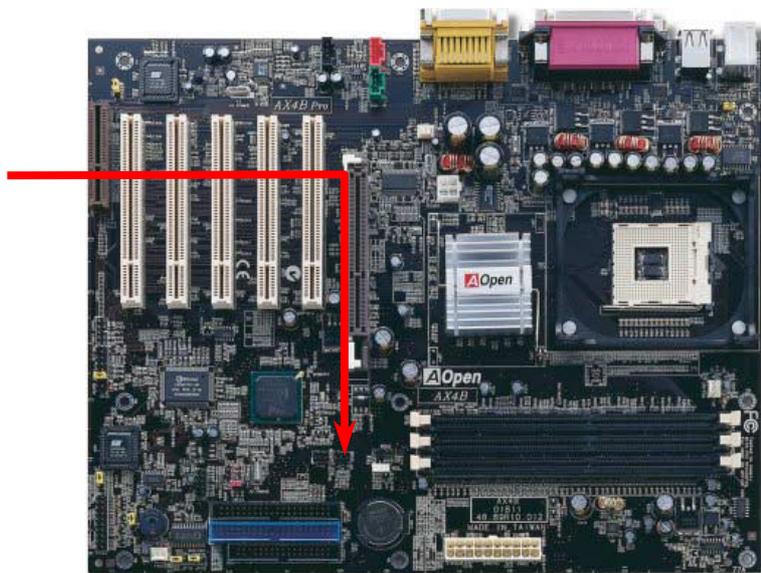
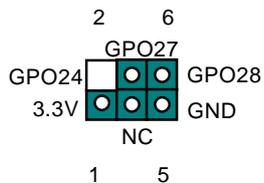


AUX 入カコネクタ



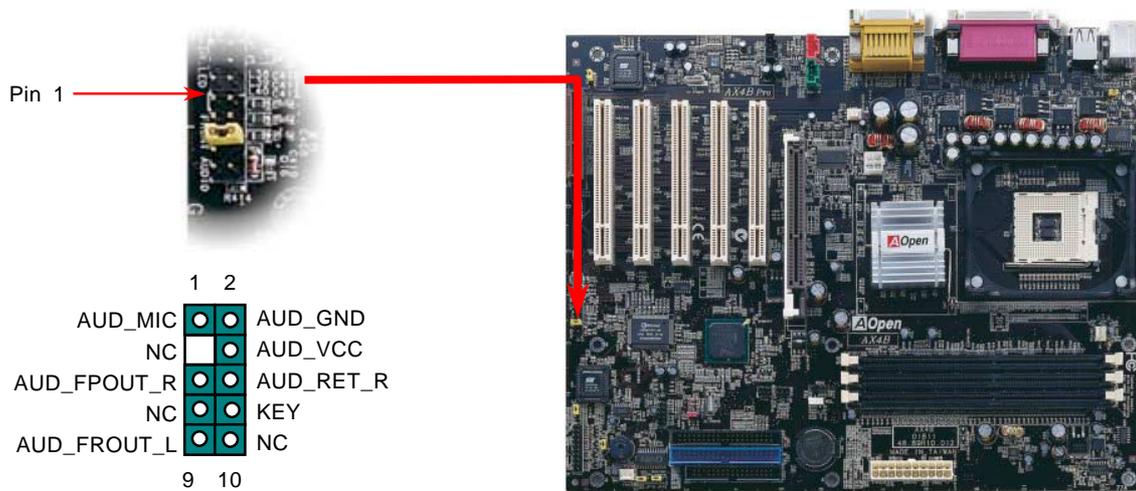
GPO (汎用出力)コネクタ

GPO (汎用出力)は、パワーユーザーが自分でより多くの機能を設定できるように、AOpen により開発された先進的な機能です。例えば、ドーターボードにアラームやブザー、タイムキーパー等の機能を持たせるよう設計できます。



フロントオーディオコネクタ

ケースのフロントパネルにオーディオポートの設計がある場合には、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。ちなみに、ケーブルを接続する前にフロントパネルのオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は黄色いキャップを外さないでください。



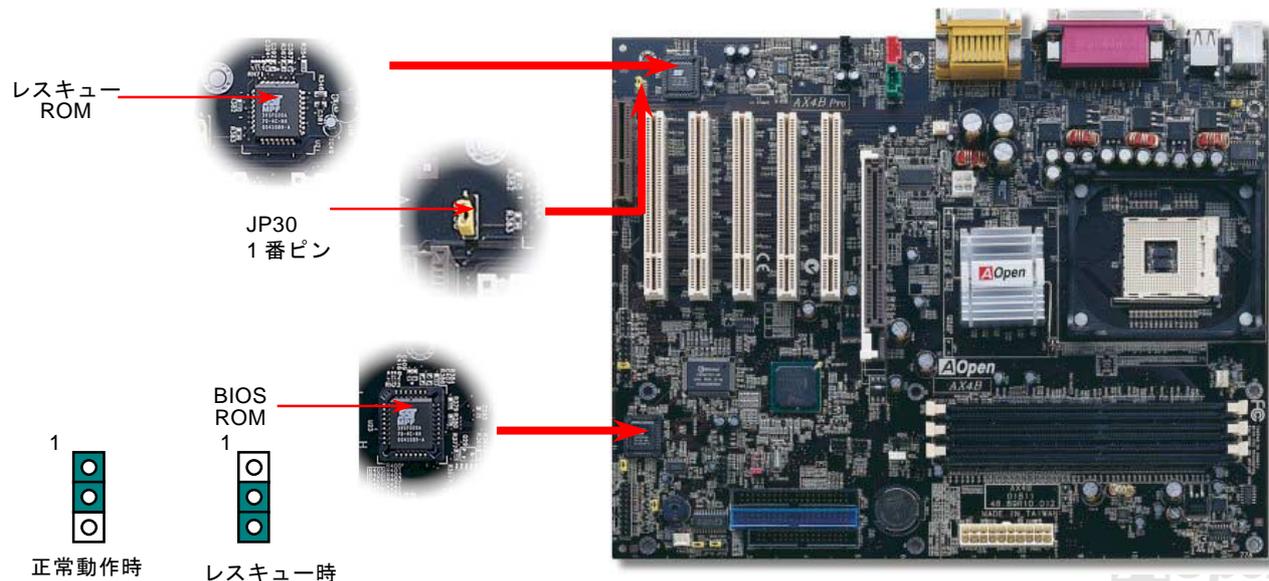
注意: ケーブルを接続する前にフロントパネルのオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合はこの黄色いキャップを外さないでください。

ダイハードBIOS (AX4B Pro のみ)

最近数多くのコンピュータウイルスは BIOS コードおよびデータ領域を破壊する事で知られています。

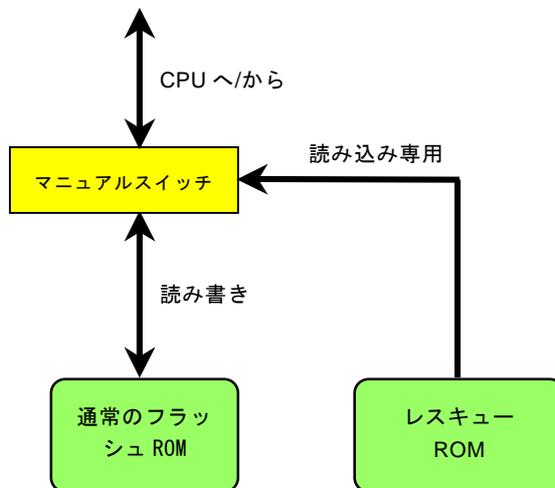
それで当マザーボードには、ソフトウェアや BIOS コードに依存しないハードウェアによる予防対策が取られており、ウイルスを 100%防止できます。

本来搭載された BIOS が正常に動作しない場合、JP30 のジャンパーを 2-3 ピンに設定することで 2 番目の BIOS ROM により、元の BIOS が復帰可能です。



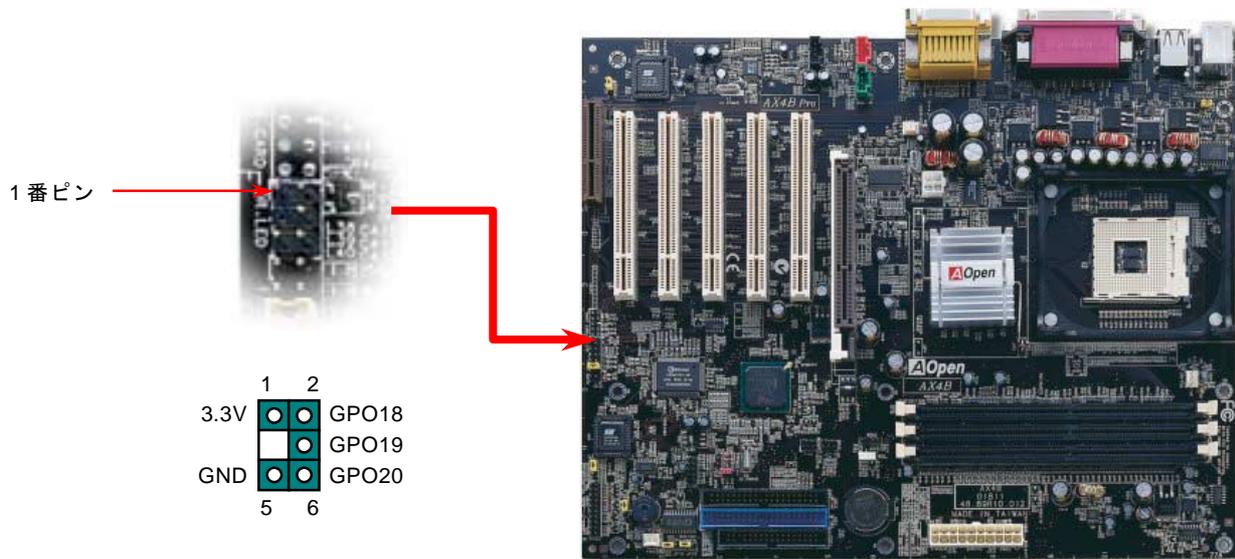
ダイハードBIOS 用外部コントローラ (AX4B Pro のみ)

外部コントローラーにより、コンピュータの筐体を開けずに BIOS モードを“レスキュー”および“ノーマル”間で切り替えられます。これにはマザーボードのコネクタピン(JP30)にジャンパーケーブルを差す必要があります。コネクタの向きにご注意ください。赤い線が 1 番ピン側に合わせます。

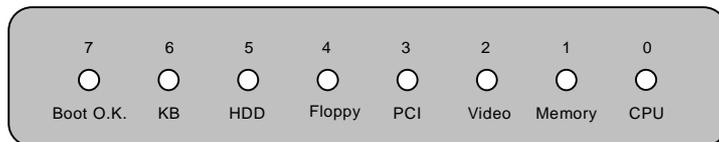


Dr. LED コネクタ

Dr. LED (アップグレードオプション) を併用すると、PC 組立て時に直面するシステム上の問題が容易に把握できます。Dr. LED のフロントパネルにある 8 個の LED 表示により、問題がコンポーネントなのか、インストール関係なのかが理解できます。これによりご使用のシステムの自己チェックが容易に行えます。



Dr. LED はフロントパネルに 8 個の LED を有する CD ディスク保管ボックスで、Dr. LED のサイズは 5.25 フロッピードライブと全く同じですから、通常の筐体の 5.25 インチドライブベイに容易にインストールできます。



システム起動時にエラーが生じると 8 個の内その段階に応じた LED が点灯します。7 番 LED (最後に点灯する LED) が点灯すれば、システムは正常に起動したことを表します。

8 個の LED はそれぞれ点灯時に以下の意味を有します。

LED 0 -CPU が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 1 -メモリが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 2 -AGP が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 3 -PCI カードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 4 -フロッピードライブが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 5 -HDD が正しくインストールされていないか故障しています。

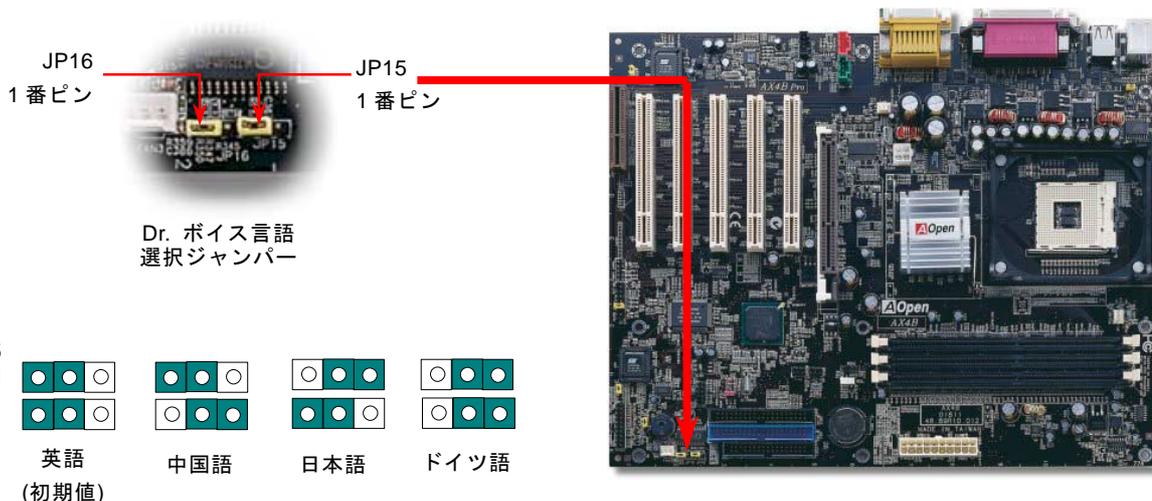
LED 6 -キーボードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 7 -システムは正常に起動しています。

注意: POST (電源投入時の自己診断) 実行中に、システム起動完了までの間、デバッグ LED は LED0 から LED7 まで順繰りに点灯します。

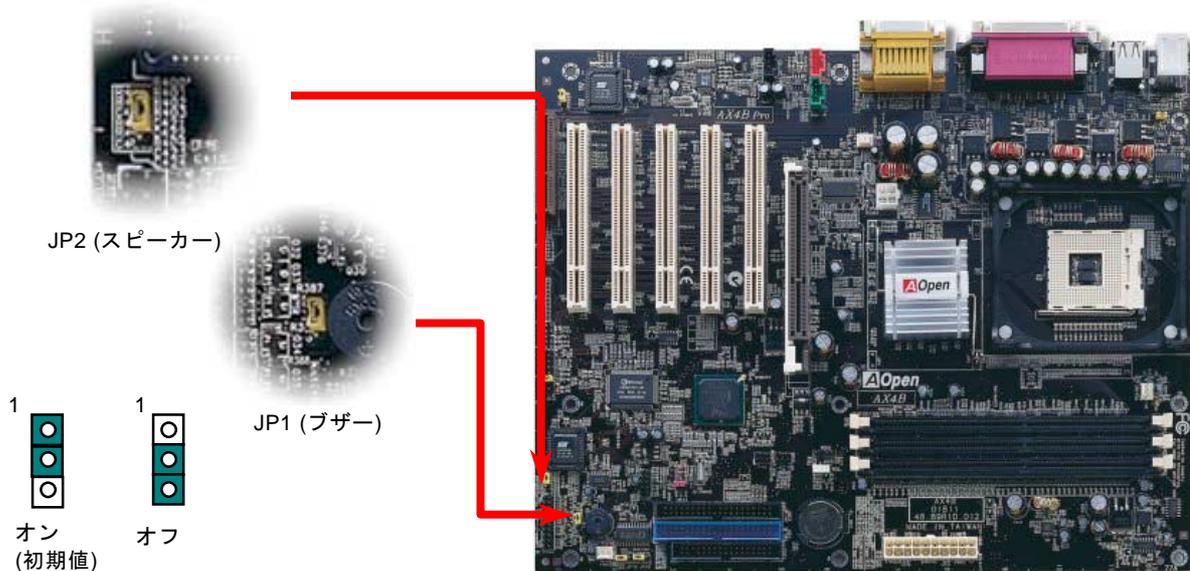
Dr.ボイス (AX4B Pro のみ)

Dr. ボイスは AX4B Pro マザーボードの素晴らしい機能です。これでユーザーは基本ソフトにおいて生じる問題を容易に理解できます。この機能で問題が CPU、メモリモジュール、VGA、PCI アドオンカード、FDD、HDD、キーボード等、コンポーネントやインストールのどの部分かを“音声通知”します。Dr.ボイスでは英語、ドイツ語、日本語、中国語の 4 つの言語バージョンが指定可能です。言語指定は JP15 および JP16 で行います。Dr. ボイス機能をオフにするには、JP1 と JP2 の 2 番ピンと 3 番ピンをジャンパーキャップでショートさせて、それぞれブザーとスピーカーから音声を出さないようにすることができます。



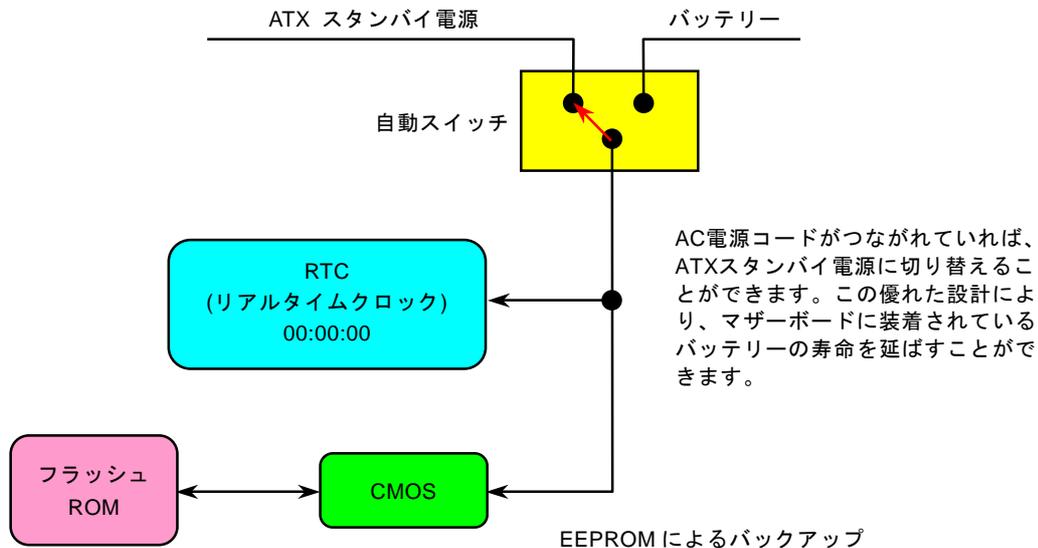
JP1 によるブザー及び JP2 によるスピーカーの設定ジャンパー

このマザーボードにはもうひとつユーザーフレンドリーな機能が備わっています。それは Dr. Voice が基本ソフトに起こるエラーを検出した場合に、ブザー及びスピーカーからの音声を消す機能です。この機能をオフにしたい場合に、JP1 と JP2 を 2 番と 3 番ピンに設定し、それぞれブザーとスピーカーからの音声を消すことができます。



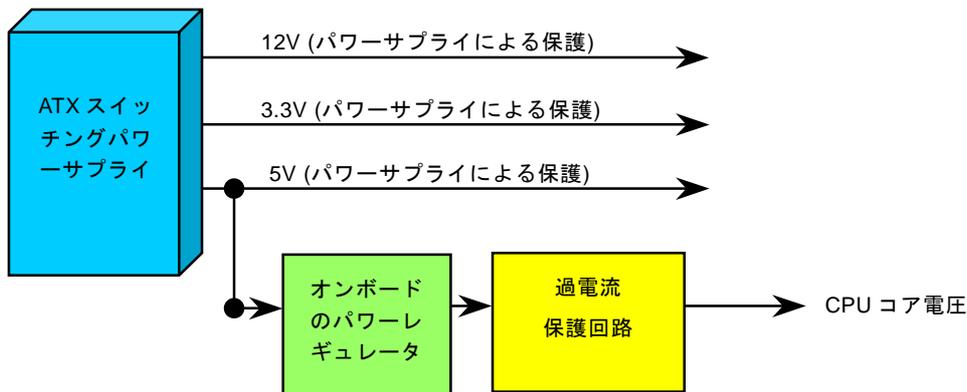
バッテリー不要及び耐久設計

このマザーボードには[フラッシュ ROM](#)と特殊回路が搭載されていますので、ご使用の CPU と CMOS 設定をバッテリー無しで保存できます。RTC (リアルタイムクロック) は電源コードが繋がれている間動作し続けます。何らかの理由で CMOS データが紛失された場合、フラッシュ ROM から CMOS 設定を再度読み込むだけでシステムは元の状態に復帰することができます。



過電流保護

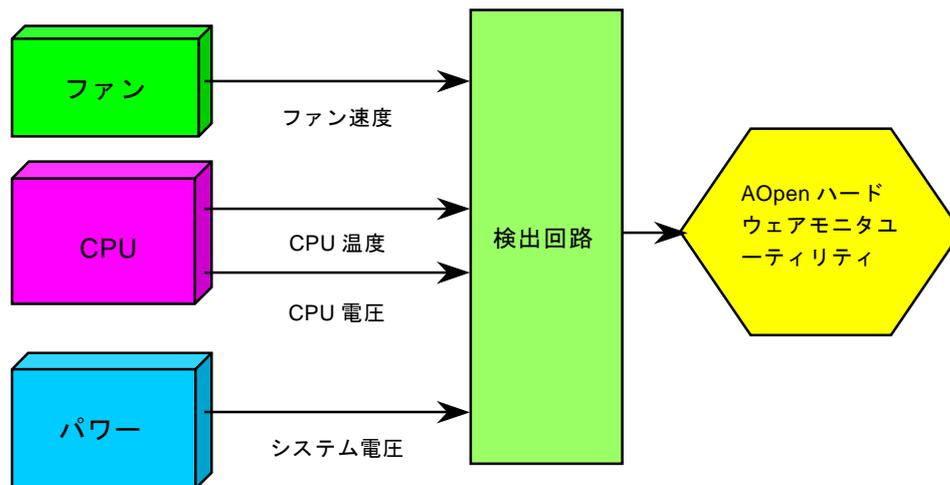
過電流保護機能はATX 3.3V/5V/12Vのスイッチングパワーサプライに採用されている一般的な機能です。しかしながら、新世代のCPUは違う電圧を使用し、5VからCPU電圧（例えば2.0V）を独自に生成するため、5Vの過電流保護は意味を持たなくなります。このマザーボードにはCPU過電流保護をオンボードでサポートするスイッチングレギュレータを採用、3.3V/5V/12Vのパワーサプライに対するフルレンジの過電流保護を提供しています。



注意: 保護回路の採用により人為的な操作ミスを防ぐようになっていますが、このマザーボードにインストールされているCPU、メモリ、ハードディスク、アドオンカード等がコンポーネントの故障、人為的操作ミス、原因不明の要素により損傷を受ける場合がありますので、AOpenは保護回路が常に正しく動作することを保証いたしかねます。

ハードウェアモニタ機能

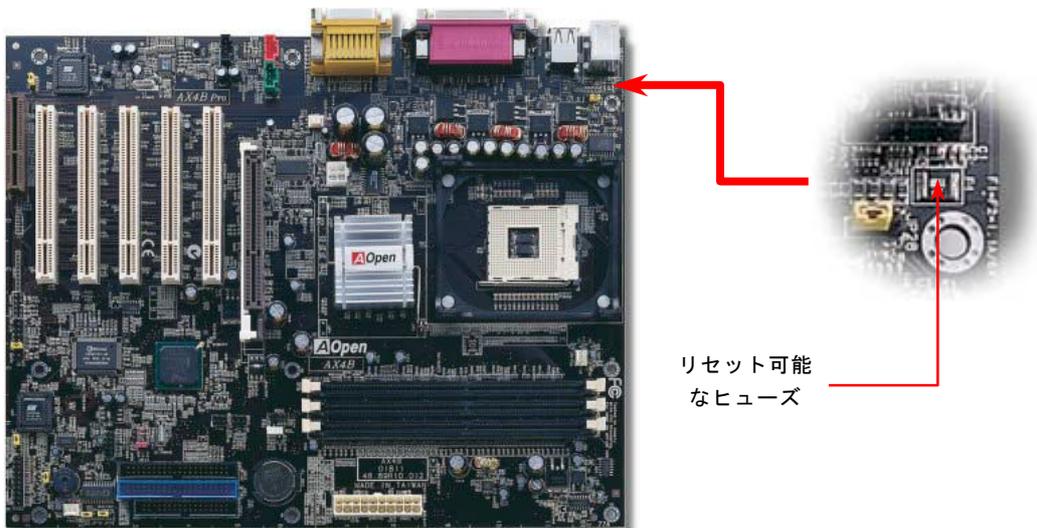
このマザーボードにはハードウェアモニタ機能が備わっています。この巧妙な設計により、システムを起動した時から、システム動作電圧、ファンの状態、CPU 温度を監視されます。これらのシステム状態のいずれかが問題のある場合、ケース内部のスピーカーやマザーボード上のブザー（存在している場合）より、警告メッセージが出されます。



リセット可能なヒューズ

従来のマザーボードではキーボードやUSBポートの過電流または短絡防止にヒューズが使用されています。これらのヒューズはボードにハンダ付けされていますので、故障した際(マザーボードを保護するため)、ヒューズを交換できず、マザーボードも故障したままにされることになります。

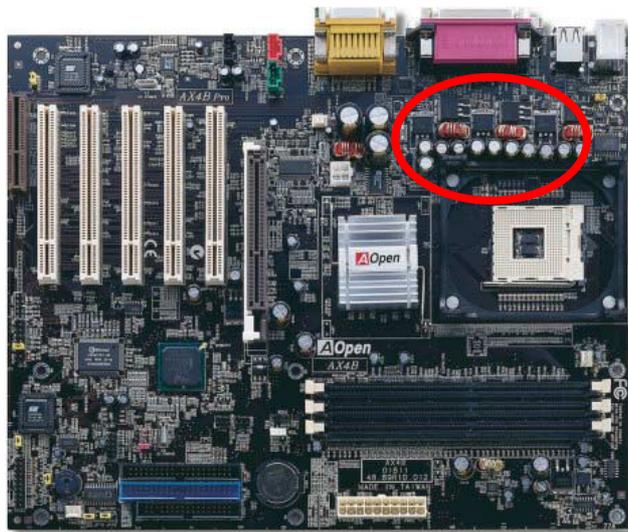
高価なリセット可能なヒューズの保護機能により、マザーボードは正常動作に復帰できます。



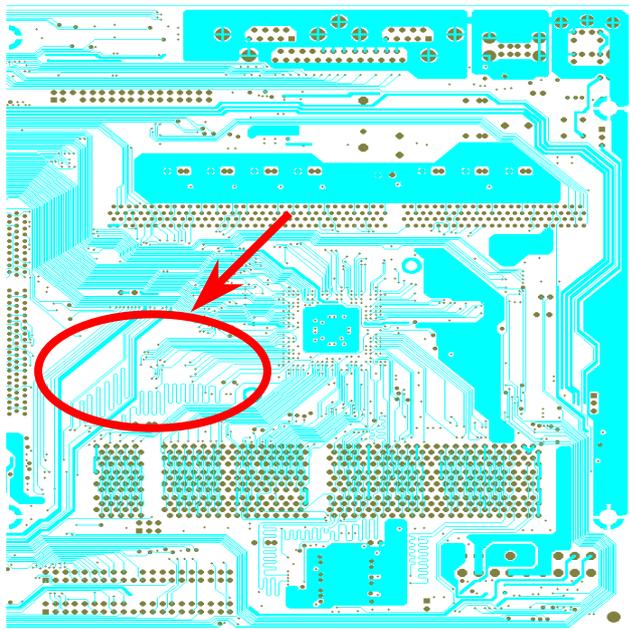
2200 μ F 低 ESR キャパシタ

高周波数動作中の低 ESR キャパシタ (低等価直列抵抗付き)の品質は CPU パワーの安定性の鍵を握ります。これらのキャパシタの設置場所は 1つのノウハウであり、経験と精密な計算が要求されます。

加えて、AX4B / AX4B Pro マザーボードには通常の容量(1000 μ F 及び 1500 μ F)をはるかに上回る 2200 μ F キャパシタが使用され、より安定した CPU パワーを保証します。



レイアウト (周波数分離ウォール)

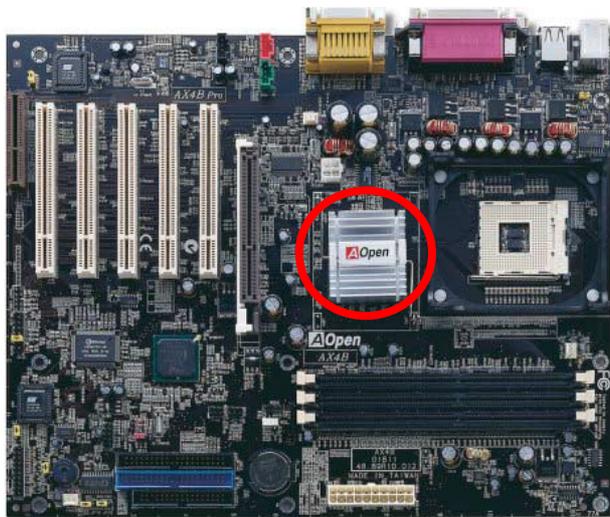


注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

高周波時の操作、特にオーバークロックの場合においては、チップセットと CPU の安定動作を決定付ける最も重要な要素となるのはレイアウトです。このマザーボードでは”周波数分離ウォール (Frequency Isolation Wall)”と呼ばれる AOpen 独自の設計が採用されています。マザーボードの各主要領域を、動作時の各周波数が同じか類似している範囲に区別することで、互いの動作やモードのクロストークや干渉が生じにくいようになっています。トレース長および経路は注意深く計算される必要があります。例えばクロックのトレースは同一長となるよう(必ずしも最短ではない)にすることで、クロックスキューは数ピコ秒($1/10^{12}$ Sec)以内に抑えられています。

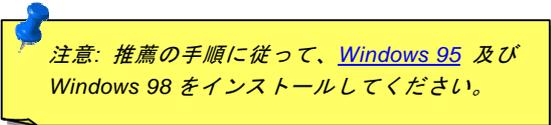
純アルミニウム製ヒートシンク

CPU およびチップセットの冷却はシステムの信頼性にとって重要です。アルミニウム製ヒートシンクにより、特にオーバークロック時により効率のよい冷却効果が実現します。



ドライバ及びユーティリティ

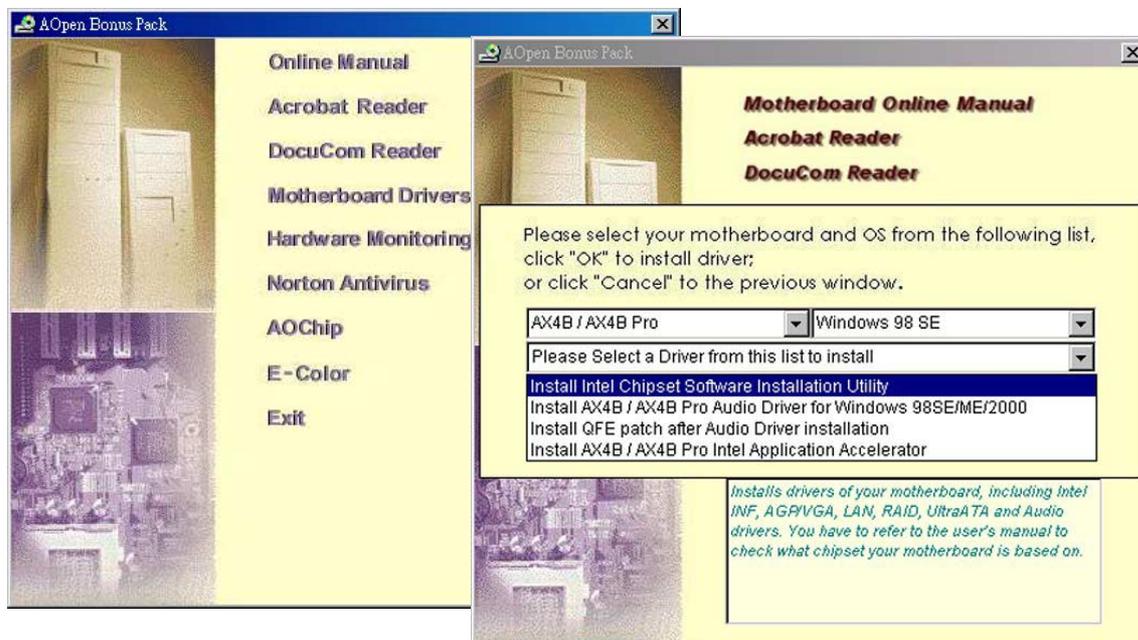
[AOpen Bonus CD ディスク](#)にはマザーボードのドライバとユーティリティが収録されています。システム起動にこれら全てをインストールする必要はありません。ただし、ハードウェアのインストール後、ドライバやユーティリティのインストール以前に、まず Windows 98 等の基本ソフトをインストールする必要があります。ご使用になる基本ソフトのインストールガイドをご覧ください。



注意: 推薦の手順に従って、[Windows 95](#) 及び Windows 98 をインストールしてください。

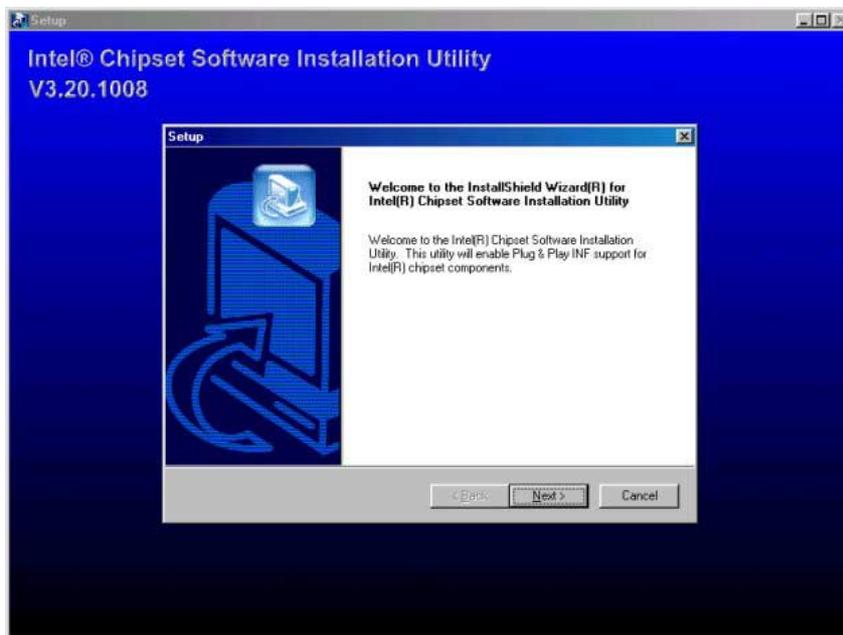
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー

Bonus CD ディスクのオートラン機能を利用できます。ユーティリティとドライバを指定し、モデル名を選んでください。



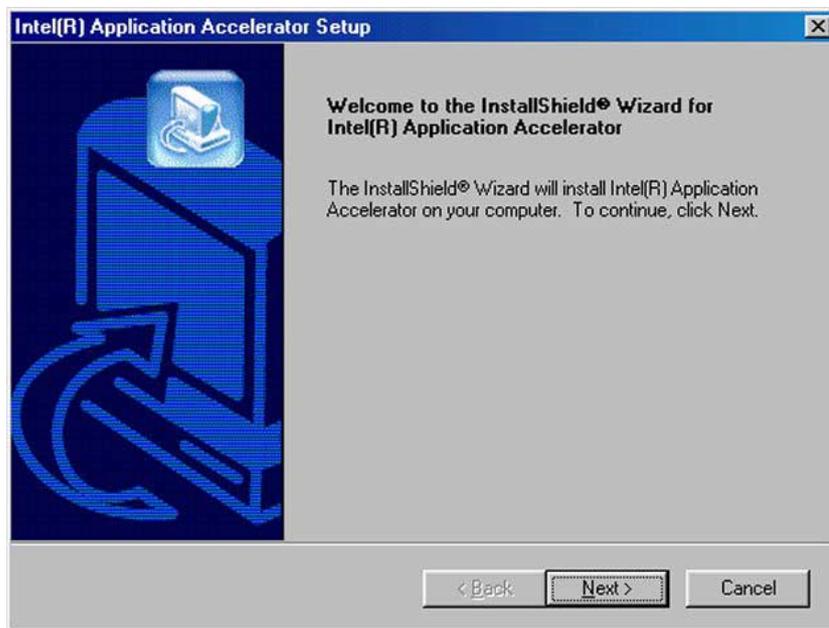
Intel®チップセットソフトウェアインストレーションユーティリティのインストール

Windows 95/98 は Intel 845 チップセット以前に開発された基本ソフトですので、このチップセットを認識できません。Bonus Pack CD ディスクのオートランメニューから Intel INF アップデートユーティリティをインストールすることで“?”マークをなくすことができます。



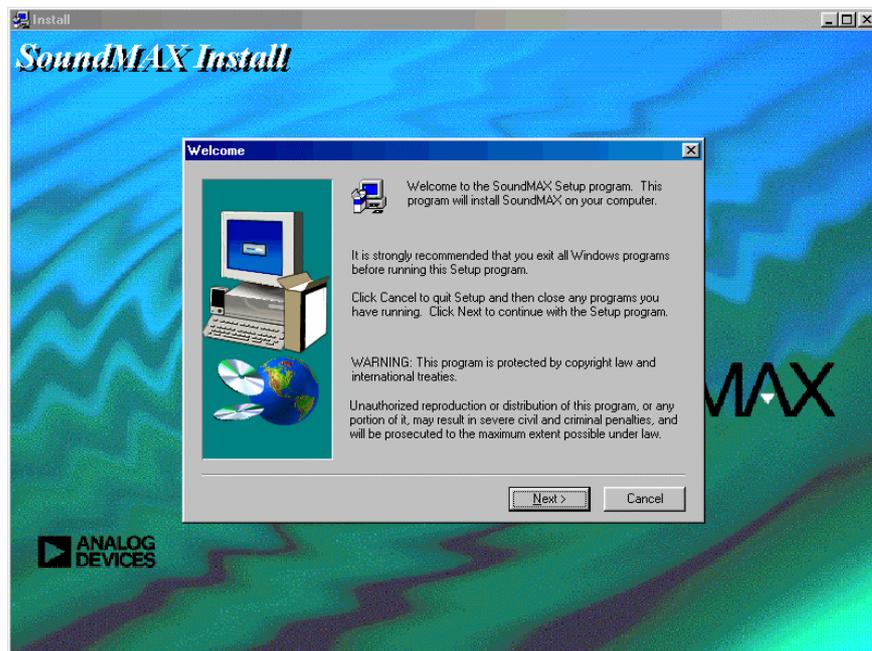
Intel IAA ドライバのインストール

Intel IAA ドライバをインストールすることで、ソフトウェアアプリケーションの性能を向上し、コンピュータの起動時間を短縮させることができます。このドライバは [AOpen Bonus Pack](#) CD ディスクから見つげられます。



オンボードサウンドドライバのインストール

このマザーボードには AD 1885 [AC97 サウンド CODEC](#) が装備されています。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスク オートランメニューから見つけられます。



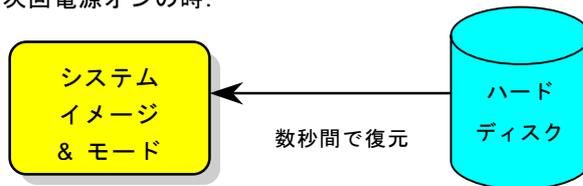
ACPI ハードディスクサスペンド

ACPI ハードディスクサスペンドは基本的には **Windows** の基本ソフトで管理されます。これで現在の作業 (システムモード、メモリ、画像イメージ)がハードディスクに保存され、システムは完全にオフにできます。次回電源をオンにした時は **Windows** やアプリケーションの起動をせずに先回の作業がハードディスクから再度読み込まれ数秒間で復元されます。ご使用のメモリが通常の **64MB** であれば、メモリアイメージを保存するため **64MB** のハードディスク空き領域が必要です。

サスペンドに入る時:



次回電源オンの時:



必要なシステム環境

1. **AOZVHDD.EXE 1.30b** またはそれ以降のバージョン
2. **config.sys** 及び **autoexec.bat** を削除

新システムにおける Windows 98 の初回インストール

1. "**Setup.exe /p j**"を実行して、Windows 98 をインストールします。
2. Windows 98 のインストール完了後、**コントロールパネル>電源の管理**を開きます。
 - a. **電源の設定 >システムスタンバイ**を"なし"に設定します。
 - b. "ハイバネーション"をクリックし、"ハイバネーションサポートを有効にする"を指定、"適用"をクリックします。
 - c. "詳細設定"タブをクリックしたら、"パワーボタン"上に"ハイバネーション"が表示されます。このオプションは上記のステップ b が実行されたあとでのみ表示され、未実行であれば、"スタンバイ"および"シャットダウン"だけが表示されます。"ハイバネーション"を選び、"適用"をクリックします。
3. DOS を起動し、AOZVHDD ユーティリティを実行します。
 - a. ディスク全体が Win 98 システムで使用される (FAT 16 又は FAT 32)場合は、"**aozvhd /c /file**"を実行します。また、ディスクに十分な空きスペースが必要である点をお忘れなくください。例えば、64 MB DRAM 及び 16 MB VGA カードをインストールする場合、システムには最小 80 MB の空きスペースが必要です。ユーティリティは空きスペースを自動的に探します。
 - b. Win 98 用にパーティションを切っている場合、"**aozvhd /c /partition**"を実行します。当然ですが、システムには未フォーマットの空きパーティションが必要です。
4. システムを再起動します。
5. これで ACPI ハードディスクサスペンドが使用可能になりました。"**スタート > シャットダウン>スタンバイ**"で画面は自動的にオフになります。システムがメモリ内容をハードディスクに保存するには 1 分程かかります。メモリサイズが大きくなるとこれに要する時間が長くなります。

APM から ACPI への変更 (Windows 98 のみ)

1. "Regedit.exe"を実行します。
 - a. 以下のパスをたどります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
MICROSOFT
WINDOWS
CURRENT VERSION
DETECT
```
 - b. "バイナリの追加"を選び、"**ACPIOPTION**"と名前を付けます。
 - c. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"01"を付けて"0000 01"とします。
 - d. 変更を保存します。
2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**ACPI BIOS**"が検出され、"**Plug and Play BIOS**"が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. DOS を起動し、"AOZVHDD.EXE /C /File"を実行します。

ACPI から APM への変更

1. "Regedit.exe"を実行します。
 - a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
MICROSOFT
WINDOWS
CURRENT VERSION
DETECT
ACPI OPTION

b. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"02"を付けて"0000 02"とします。

ヒント: "02"は、Windows 98 が ACPI を検出したものの、ACPI 機能はオフになっていることの目印です。

c. 変更を保存します。

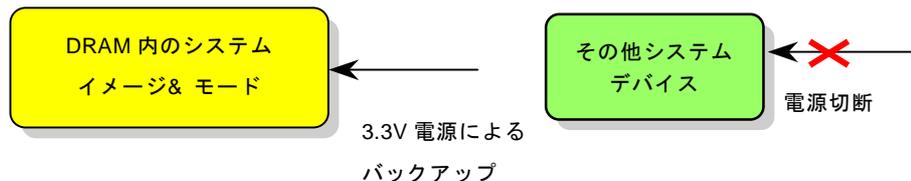
2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**Plug and Play BIOS**"が検出され、"**ACPI BIOS**"が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. "新たなハードウェアの追加"を再度開くと、"Advanced Power Management Resource"が検出されます。
5. "OK"をクリックします。

ヒント:現在のところ、ATI 3D Rage Pro AGP カードのみが ACPI ハードディスクサブバンドをサポートしています。最新情報は AOpen ウェブサイトをご覧ください。

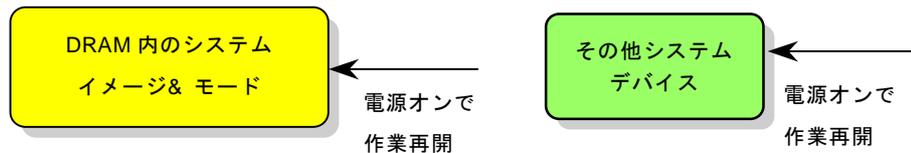
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR)

このマザーボードはACPIサスペンドトゥーRAM機能をサポートしています。この機能により、Windows 98 やアプリケーションの再起動せずに、先回の作業をDRAMから再現することが可能です。DRAMへのサスペンドは作業内容をシステムメモリに保存するので、ハードディスクサスペンドより高速ですが、DRAMへの電力供給が必要である面、電力消費がないハードディスクサスペンドとは異なります。

サスペンドに入る時:



次回パワーオンの時:



ACPI サスペンドトゥーDRAM を使用可能にするには、以下の手順に従います。

必要なシステム環境

1. ACPI 対応の OS が必要です。現在、Windows 95 及び Windows NT 以外、あらゆる他の Windows 基本ソフトが ACPI をサポートしています。
2. Intel[®] チップセットソフトウェアインストレーションユーティリティが正しくインストールされてある必要があります。

手順

1. 以下の BIOS 設定を変更します。

BIOS Setup > Power Management Setup > ACPI Function : Enabled (オン)

BIOS Setup > Power Management Setup > ACPI Suspend Type :S3.

2. コントロールパネル>電源の管理とたどります。“パワーボタン”を“スタンバイ”に設定します。
3. パワーボタンまたはスタンバイボタンを押すとシステムが復帰します。

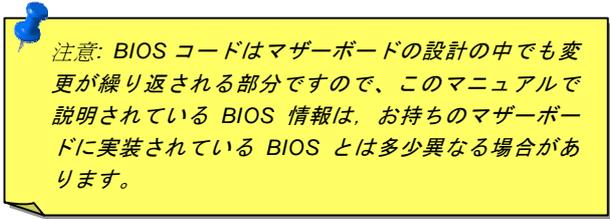
AWARD BIOS

システムパラメータの変更は[BIOS](#) セットアップメニューから行えます。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128 バイトの **CMOS** 領域 (通常、**RTC** チップの中か、またはメインチップセットの中) に保存できます。

マザーボード上の[フラッシュ ROM](#)にインストールされている AwardBIOS™は業界規格 BIOS のカスタムバージョンです。BIOS はハードディスクドライブや、シリアル・パラレルポートなどの標準的な装置の基本的な入出力機能を管理する肝心のプログラムです。

AX4B / AX4B Pro の BIOS 設定の大部分は AOpen の R&D エンジニアリングチームによって最適化されています。しかし、システム全体に適合するよう、BIOS のデフォルト設定だけでチップセット機能を細部に至るまで調整するのは不可能です。その故に、この章の以下の部分には、セットアップを利用したシステムの設定方法が説明されています。

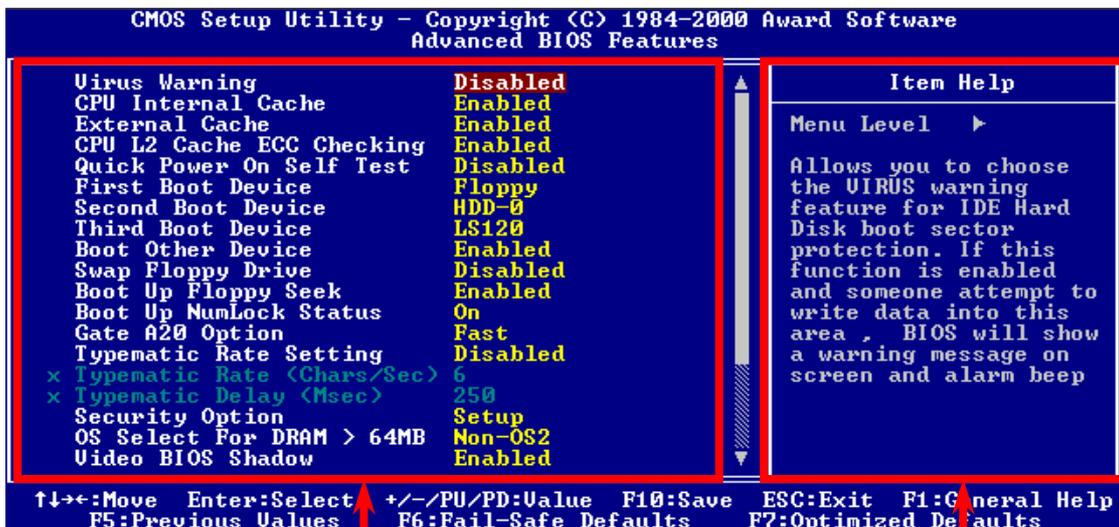
[BIOS セットアップメニューを表示するには、POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押してください。



注意: BIOS コードはマザーボードの設計の中でも変更が繰り返される部分ですので、このマニュアルで説明されている BIOS 情報は、お持ちのマザーボードに実装されている BIOS とは多少異なる場合があります。

BIOS 機能の説明…

AOpen はユーザーによりフレンドリーなコンピュータシステム環境を提供するよう努力しています。このたび、弊社は BIOS セットアッププログラムの説明を全て BIOS フラッシュ ROM に含めました。BIOS セットアッププログラムの機能を選択すると、画面右側に機能の説明がポップアップ表示されます。それで BIOS 設定変更の際マニュアルを見る必要はなくなりました。



メニュー項目選択ウィンドウ

項目の機能説明ウィンドウ



Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法

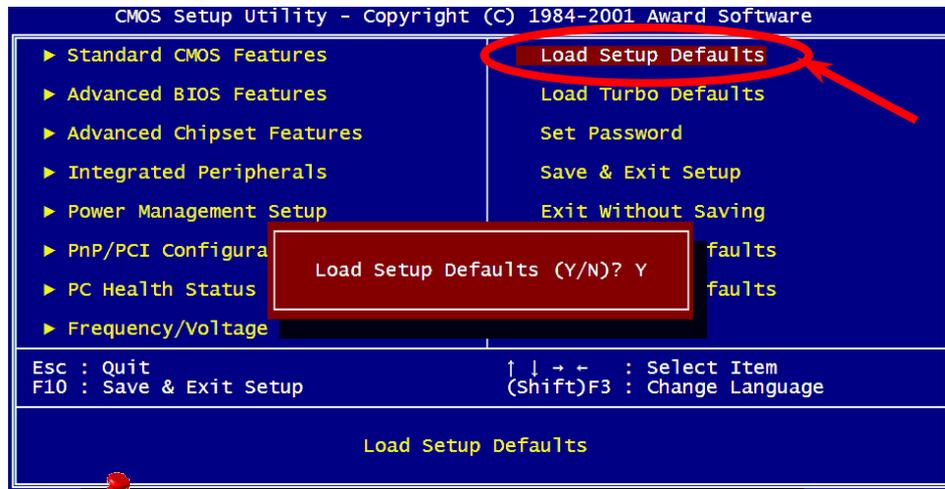
一般には、選択する項目を矢印キーでハイライト表示させ、<Enter>キーで選択、<Page Up>および<Page Down>キーで設定値を変更します。また<F1>キーでヘルプ表示、<Esc>キーで Award™ BIOS セットアッププログラムを終了できます。下表には Award™ BIOS セットアッププログラム使用時のキーボード機能が説明されています。さらに全ての AOpen マザーボード製品では BIOS セットアッププログラムに特別な機能が加わっています。それは<F3>キーで表示する言語の指定が可能である点です。

キー	説明
Page Up または+	次の設定値に変更または設定値を増加させる
Page Down または-	前の設定値に変更または設定値を減少させる
Enter	項目の選択
Esc	1. メインメニュー内: 変更を保存せずに中止 2. サブメニュー内: サブメニューからメインメニューに戻る
↑	前の項目をハイライト表示する
↓	次の項目をハイライト表示する
←	メニュー内のハイライト部分を左に移動
→	メニュー内のハイライト部分を右に移動
F1	メニューや項目のヘルプを表示する
F3	メニュー言語の変更
F5	CMOS から前回の設定値をロード

キー	説明
F6	CMOS からフェイルセーフ設定値をロード。
F7	CMOS からターボ設定値をロード。
F10	変更を保存してセットアップを終了

BIOS セットアップの起動方法

ジャンパー設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。システムに電源を入れて、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押すと、BIOS セットアップに移行します。最適なパフォーマンスを実現するには "Load Setup Defaults (デフォルト値のロード)" を選択してください。



警告: ご使用のシステムコンポーネント(CPU, DRAM, HDD 等)がターボ設定可能であることがはっきりしない場合は、“ターボデフォルト値のロード” は使用しないでください。

BIOS のアップグレード

マザーボードのフラッシュ操作をすることには、BIOS フラッシュエラーの可能性が伴うことをご了承ください。マザーボードが正常に安定動作しており、最新の BIOS バージョンで大きなバグフィックスがなされていない場合は、BIOS のアップデートは行わないようお勧めします。

BIOS のアップグレードを行うと BIOS フラッシュに失敗する恐れがあります。アップグレードを実行する際には、マザーボードモデルに適した正しい BIOS バージョンを必ず使用するようになしてください。

AOpen Easy Flash は従来のフラッシュ操作とは多少異なる設計になっています。[BIOS](#) バイナリファイルとフラッシュルーチンが一緒になっていますので、1つのファイルを実行するだけでフラッシュ処理が可能です。



注意: AOpen Easy Flash BIOS プログラムは Award BIOS と互換性を持ちません。現在のところ、AOpen Easy Flash BIOS プログラムは AMI BIOS では使用できません。たいていの場合、AMI BIOS は以前の 486 ボードまたは初期の Pentium ボードで使用されています。アップグレードの前に BIOS パッケージに圧縮されている README ファイルをご参考になり、そのアップグレード手順に従ってください。これでフラッシュ時のエラーの発生を最小限に抑えられます。

簡単なフラッシュ手順は以下のとおりです。(Award BIOS のみを対象)

1. AOpen のウェブサイトから最新の BIOS アップグレード [zip](#) ファイルをダウンロードします。たとえば、AX4BP102.ZIP です。
2. 各種の基本ソフトをサポートするシェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com/>) を実行して、バイナリ BIOS ファイルとフラッシュユーティリティを解凍します。Windows 環境であれば、Winzip (<http://www.winzip.com/>) が使用できます。
3. 解凍したファイルを起動用フロッピーディスクに保存します。たとえば、AX4BP102.BIN 及び AX4BP102.EXE です。
4. システムを DOS モードで再起動してください。この際 EMM386 等のメモリ操作プログラムやデバイスドライバはロードしないようにしてください。約 520K の空きメモリ領域が必要です。
5. A:> AX4BP102 を実行すると後はプログラムが自動処理します。

フラッシュ処理の際は表示がない限り、絶対に電源を切らないで下さい!!

6. システムを再起動し、キーを押して [BIOS セットアップ](#) を起動します。"[Load Setup Defaults](#)" を選び、"[Save & Exit Setup \(保存して終了\)](#)" します。これでアップグレード完了です。



警告:フラッシュ時には以前の BIOS 設定およびプラグアンドプレイ情報は完全に置き換えられます。システムが以前のように動作するには、BIOS の再設定、Win95/Win98 及びアドオンカードの再インストールが必要となります。

オーバークロック

マザーボード業界での先進メーカーである AOpen は常にお客様のご要望に耳を傾け、ユーザー皆様の様々なご要求に合った製品を開発してまいりました。マザーボードの設計の際の私たちの目標は、信頼性、互換性、先進テクノロジー、ユーザーフレンドリーな機能です。これら設計上の分野の一方には、“オーバークロッカー”と呼ばれるシステム性能をオーバークロックにより限界まで引き出すよう努めるパワーユーザーが存在します。

このセクションはオーバークロッカーの皆さんを対象にしています。

この高性能マザーボードは最大 400MHz の CPU バスクロックをサポートします。しかしこれはさらに将来の CPU バスクロック用に 248MHz まで使用可能なように設計されています。弊社ラボのテスト結果によれば、高品質のコンポーネントと適切な設定により 120MHz が到達可能であることを示しています。その上、CPU クロックレシオは最大 24 倍で、これは殆ど全ての Pentium® 4 CPU に対してオーバークロックの自由度を提供するものです。参考までに 120MHz バスクロックへとオーバークロックした際の設定値を紹介します。

これはオーバークロック動作を保証するものではありません。☺

ヒント: オーバークロックによる発熱問題も考慮に入れてください。冷却ファンとヒートシンクが CPU のオーバークロックにより生じる余分の熱を放散する能力があるか確認してください。

警告: この製品は CPU およびチップセットベンダーの設計ガイドラインにしたがって製造されています。製品仕様を超える設定は薦められている範囲外であり、ユーザーはシステムや重要なデータの損傷などのリスクを個人で負わなければなりません。オーバークロックの前に各コンポーネント特に CPU、メモリ、ハードディスク、AGP VGA カード等が通常以外の設定に耐えるかどうかを確認してください。

VGA カード及びハードディスク

VGA およびハードディスクはオーバークロック時に重要なコンポーネントです。以下のリストは弊社ラボでテスト済みの成功例です。上述のリスト中におけるコンポーネントで再度オーバークロックに成功できるかどうかは AOpen では保証いたしかねますのでご注意ください。弊社の公式ウェブサイトまで使用可能なベンダーリスト (AVL) をご確認ください。

VGA: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/vga-oc.htm>

HDD: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/hdd-oc.htm>

用語解説

AC97 サウンドコーデック

基本的には AC97 規格はサウンドおよびモデム回路を、デジタルプロセッサおよびアナログ入出力用の [CODEC](#) の 2 つに分け、AC97 リンクバスでつないだものです。デジタルプロセッサはマザーボードのメインチップセットに組み込めるので、サウンドとモデムのオンボードのコストを軽減することができます。

ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)

ACPI は PC97 (1997) のパワーマネジメント規格です。これはオペレーションシステムへのパワーマネジメントを [BIOS](#) をバイパスして直接制御することで、より効果的な省電力を行うものです。チップセットまたはスーパー I/O チップは Windows 98 等のオペレーションシステムに標準レジスタインタフェースを提供する必要があります。この点は [PnP](#) レジスタインタフェースと少し似ています。ACPI によりパワーモード変更時の ATX 一時ソフトパワースイッチが設定されます。

AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)

AGP は高性能 3D グラフィックスを対象としたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書き作業、1 つのマスター、1 つのスレーブのみをサポートします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりおよび下降の両方を利用し、2X AGP ではデータ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ となります。AGP は現在 4X モードに移行中で、この場合は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ となります。AOpen は 1999 年 10 月から AX6C (Intel 820) および MX64/AX64 (VIA 694x) により 4X AGP マザーボードをサポートしている初のメーカーです。

AMR (オーディオ/モデムライザー)

AC97 サウンドとモデムのソリューションである [CODEC](#) 回路はマザーボード上または AMR コネクタでマザーボードに接続したライザーカード (AMR カード) 上に配置することが可能です。

AOpen Bonus Pack CD

AOpen マザーボード製品に付属のディスクで、マザーボード各種ドライバ、[PDF](#) 形式のオンラインマニュアル表示用の Acrobat Reader、その他役立つユーティリティが収録されています。

APM (アドバンスドパワーマネジメント)

[ACPI](#) とは異なり、BIOS が APM のパワーマネジメント機能の大部分を制御しています。AOpen ハードディスクサスペンドが APM パワーマネジメントの典型的な例です。

ATA (AT アタッチメント)

ATA はディスクインタフェースの規格です。80 年代に、ソフトウェアおよびハードウェアメーカー多数により ATA 規格が確立されました。AT とは International Business Machines Corp. (IBM) のパソコン/AT のバス構造のことです。

ATA/66

ATA/66 はクロック立ち上がりと下降時の両方を利用し、[UDMA/33](#) の転送速度の 2 倍となります。データ転送速度は PIO mode 4 あるいは DMA mode 2 の 4 倍で、16.6MB/s x4 = 66MB/s です。ATA/66 を使用するには、ATA/66 IDE 専用ケーブルが必要です。

ATA/100

ATA/100 は現在発展中の IDE 規格です。ATA/100 も [ATA/66](#)と同様クロックの立ち上がりと降下時を利用しますが、クロックサイクルタイムは 40ns に短縮されています。それで、データ転送速度は $(1/40\text{ns}) \times 2 \text{ バイト} \times 2 = 100\text{MB/s}$ となります。ATA/100 を使用するには ATA/66 と同様、専用の 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

BIOS (基本入出カシステム)

BIOS は[EPROM](#)または[フラッシュ ROM](#)に常駐する一連のアセンブリルーチンおよびプログラムです。BIOS はマザーボード上の入出力機器およびその他ハードウェア機器を制御します。一般には、ハードウェアに依存しない汎用性を持たせるため、オペレーションシステムおよびドライバは直接ハードウェア機器ではなく BIOS にアクセスするようになっています。

Bus Master IDE (DMA モード)

従来の PIO (プログラマブル I/O) IDE では、機械的な操作待ちを含めた全ての動作を CPU から管理することが必要でした。CPU 負荷を軽減するため、バスマスターIDE 機器はメモリ間でのデータのやり取りを CPU を介さずに行うことで、データがメモリと IDE 機器間で転送中にも CPU の動作を遅くさせません。バスマスターIDE モードをサポートするには、バスマスターIDE ドライバおよびバスマスターIDE ハードディスクドライブが必要です。

CNR (コミュニケーション及びネットワーキングライザー)

CNR 規格は、今日の「つながれた PC」に広く使用される LAN、ホームネットワーキング、DSL、USB、無線、オーディオ、モデムサブシステムを柔軟かつ低コストで導入する機会を PC 業界に提供します。CNR は、OEM 各社、IHV カードメーカー、チップ供給メーカー、Microsoft によって支持されているオープンな工業規格です。

CODEC (符号化および復号化)

通常、CODEC はデジタル信号とアナログ信号相互の変換を行う回路を意味します。これは [AC97](#) サウンドおよびモデムソリューションの一部です。

DDR (ダブルデータレテッド) SDRAM

DDR SDRAM は既存の DRAM インフラ構造とテクノロジーを使用しながら、システムが 2 倍のデータ転送を行えるようにするもので設計及び採用が容易です。当初大容量メモリを要するサーバー及びワークステーションの完璧なソリューションとして打ち出された DDR は、その低コスト及び低電圧のため、高性能デスクトップ機、モバイル PC、低価格 PC さらにはインターネット機器やモバイル機器まで、PC 市場の各分野での理想的なソリューションとなっています。

DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)

DIMM ソケットには合計 168 ピンがあり、64 ビットのデータをサポートします。これには片面と両面とがあり、PCB の各側のゴールドフィンガー信号が異なり、このためデュアルインラインと呼ばれます。ほとんどすべての DIMM は動作電圧 3.3V の [SDRAM](#) で構成されます。旧式の DIMM には [FPM/EDO](#) を使用する物があり、これは 5V でのみ動作します。これは SDRAM DIMM と混同できません。

DMA (ダイレクトメモリアクセス)

メモリ及び周辺機器間での通信用のチャンネルです。

ECC (エラーチェックおよび訂正)

ECC モードは 64 ビットのデータに対し、8 ECC ビットが必要です。メモリにアクセスされる度に、ECC ビットは特殊なアルゴリズムで更新、チェックされます。パリティモードでは単ビットエラーのみが検出可能であるのに対し、ECC アルゴリズムは複ビットエラーを検出、単ビットエラーを自動訂正する能力があります。

EDO (拡張データ出力)メモリ

EDO DRAM テクノロジーは FPM (ファストページモード)と酷似しています。保存準備動作を開始し 3 サイクルでメモリデータ出力する従来の FPM とは異なり、EDO DRAM はメモリデータを次のメモリアクセスサイクルまで保持する点で、パイプライン効果に類似し、1 クロックモードの節約となります。

EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM)

これは E²PROM とも呼ばれます。EEPROM および [フラッシュ ROM](#) は共に電気信号で書き換えができますが、インタフェース技術は異なります。EEPROM のサイズはフラッシュ ROM より小型です。

EPROM (消去可能プログラマブル ROM)

従来のマザーボードでは BIOS コードは EPROM に保存されていました。EPROM は紫外線(UV)光によってのみ消去可能です。BIOS のアップグレードの際は、マザーボードから EPROM を外し、UV 光で消去、再度プログラムして、元に戻すことが必要でした。

EV6 バス

EV6 バスは Digital Equipment Corp.社製の Alpha プロセッサテクノロジーです。EV6 バスは DDR SDRAM や ATA/66 IDE バスと同様、データ転送にクロックの立ち上がりと降下両方を使用します。

EV6 バスクロック = CPU 外部バスクロック x 2.

例えば、200 MHz EV6 バスは実際には 100 MHz 外部バスクロックを使用しますが、200 MHz に相当するクロックとなります。

FCC DoC (Declaration of Conformity)

DoC は FCC EMI 規定の認証規格コンポーネントです。この規格により、シールドやハウジングなしで DoC ラベルを DIY コンポーネント (マザーボード等)に適用できます。

フラッシュ ROM

フラッシュ ROM は電気信号で再度プログラム可能です。BIOS はフラッシュユーティリティにより容易にアップグレードできますが、ウイルスに感染し易くもなります。新機能の増加により、BIOS のサイズは 64KB から 256KB (2M ビット) に拡大しました。AOpen AX5T は最初に 256KB (2M ビット) フラッシュ ROM を採用したマザーボードです。現在、フラッシュ ROM サイズは AX6C (Intel 820) および MX3W (Intel 810) マザーボードのように 4M ビットへと移行中です。AOpen 製マザーボードは EEPROM を使用することでジャンパーとバッテリー不要の設計を実現しています。

FSB (フロントサイドバス) クロック

FSB クロックとは CPU 外部バスクロックのことです。

CPU 内部クロック = CPU FSB クロック x CPU クロックレシオ

PC Bus

[SMBus](#) をご覧ください。 .

IEEE 1394

IEEE 1394 は Apple Computer がデスクトップ LAN として考案した低コストのデジタルインタフェースで、IEEE 1394 ワーキンググループによって発展してきました。IEEE 1394 ではデータ転送速度が 100, 200 または 400 Mbps となります。利用法の一つとして、デジタルテレビ機器を 200 Mbps で接続することが挙げられます。シリアルバスマネジメントにより、タイミング調整、バス上の個々の機器への適切な電力供給、同時間性チャンネル ID 割り当て、エラー発生通知等のシリアルバスの設定制御が行われます。IEEE 1394 のデータ転送には 2 つの方式があります。1 つは非同期、他方はアイソクロノス (isochronous) 転送です。非同期転送は従来のコンピュータによるメモリへのマップ、ロード、ストアを行うインタフェースです。データ転送要求は特定のアドレスに送られ確認が返されます。日進月歩のシリコン技術に調和して IEEE 1394 にはアイソクロノス転送チャンネルのインタフェースが用意されています。アイソクロノスデータチャンネルは一定のクロック信号に合わせてデータ転送を行うもので、着実な転送が保証されます。これは時間要素が大きく効いてくるマルチメディアデータにとって特に有用で、データの即時転送によって手間のかかるバッファ処理を省くことができます。

パリティビット

パリティモードは各バイトに対して 1 パリティビットを使用し、通常はメモリデータ更新時には各バイトのパリティビットは偶数の "1" が含まれる偶数パリティモードとなります。次回メモリに奇数の "1" が読み込まれるなら、パリティエラーが発生したことになり、単ビットエラー検出と呼ばれます。

PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM)

Socket 7 CPU では、1 回のバーストデータ読み込みで 4QWord (Quad-word, $4 \times 16 = 64$ ビット) が必要です。PBSRAM は 1 つのアドレスデコード時間が必要なだけで、残りの Qwords の CPU 転送は予め決められたシーケンスで行われます。通常これは 3-1-1-1 の合計 6 クロックで、非同期 SRAM より高速です。PBSRAM は Socket 7 CPU の L2 (level 2) キャッシュにたびたび使用されます。Slot 1 および Socket 370 CPU は PBSRAM を必要としません。

PC-100 DIMM

[SDRAM](#) DIMM のうち、100MHz CPU [FSB](#) バスクロックをサポートするものです。

PC-133 DIMM

[SDRAM](#) DIMM のうち、133MHz CPU [FSB](#) バスクロックをサポートするものです。

PC-1600 および PC-2100 DDR DRAM

FSB クロックにより、DDR DRAM は動作クロック 200MHz と 266MHz の 2 タイプがあります。DDR DRAM のデータバスは 64-ビットなので、データ転送速度は $200 \times 64 / 8 = 1600 \text{MB/s}$ 及び $266 \times 64 / 8 = 2100 \text{MB/s}$ となります。以上より PC-1600 DDR DRAM は 100MHz を、PC-2100 DDR DRAM は 133MHz FSB クロックを使用していることがわかります。

PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス

コンピュータと拡張カード間の周辺機器内部での高速データ転送チャンネルです。

PDF フォーマット

電子式文書の形式の一種である PDF フォーマットはプラットフォームに依存しないもので、PDF ファイル読み込みには Windows, Unix, Linux, Mac ...用の各 PDF Reader を使用します。PDF ファイル表示には IE および Netscape のウェブブラウザも使用できますが、この場合 PDF プラグイン (Acrobat Reader を含む)をインストールしておく必要があります。

PnP(プラグアンドプレイ)

PnP 規格は BIOS およびオペレーションシステム (Windows 95 等)の双方に標準レジスタインタフェースを必要とします。これらレジスタは BIOS とオペレーションシステムによるシステムリソースの設定および競合の防止に使用されます。IRQ/DMA/メモリは PnP BIOS またはオペレーションシステムにより自動割り当てされます。現在、PCI カードのほとんどおよび大部分の ISA カードは PnP 対応済です。

POST (電源投入時の自己診断)

電源投入後の BIOS の自己診断手続きは、通常、システム起動時の最初または 2 番目の画面で実行されます。

RDRAM (Rambus DRAM)

ラムバスは大量バーストモードデータ転送を利用するメモリ技術です。理論的にはデータ転送速度はSDRAMよりも高速です。RDRAM チャンネル操作でカスケード処理されます。Intel 820 の場合、1 つの RDRAM チャンネルのみが認められ、各チャンネルは 16 ビットデータ長、チャンネルに接続可能な RDRAM デバイスは最大 32 であり、RIMM ソケット数は無関係です。

RIMM (Rambus インラインメモリモジュール)

RDRAM メモリ技術をサポートする 184 ピンのメモリモジュールです。RIMM メモリモジュールは最大 16 RDRAM デバイスを接続できます。

SDRAM (同期 DRAM)

SDRAM は DRAM 技術の一つで、DRAM が CPU ホストバスと同じクロックを使用するようにしたものです (EDO および FPM は非同期型でクロック信号は持ちません)。これは PBSRAM がバーストモード転送を行うのと類似しています。SDRAM は 64 ビット 168 ピン DIMM の形式で、3.3V で動作します。AOpen は 1996 年第 1 四半期よりデュアル SDRAM DIMM をオンボード (AP5V) でサポートする初のメーカーとなっています。

シャドウ E²PROM

E²PROM 動作をシミュレートするフラッシュ ROM のメモリ領域のことで、AOpen マザーボードはシャドウ E²PROM によりジャンパーおよびバッテリー不要の設計となっています。

SIMM (シングルインラインメモリモジュール)

SIMM のソケットは 72 ピンで片面だけです。PCB 上のゴールドフィンガーは両側とも同じです。これがシングルインラインと言われる所以です。SIMM は FPM または EDO DRAM によって構成され、32 ビットデータをサポートします。SIMM は現在のマザーボード上では徐々に見られなくなっています。

SMBus (システムマネジメントバス)

SMBus は I2C バスとも呼ばれます。これはコンポーネント間のコミュニケーション(特に半導体 IC)用に設計された 2 線式のバスです。使用例としては、ジャンパーレスマザーボードのクロックジェネレーターのカロック設定があります。SMBus のデータ転送速度は 100Kbit/s しかなく、1 つのホストと CPU または複数のマスターと複数のスレーブ間でのデータ転送に利用されます。

SPD (既存シリアル検出)

SPD は小さな ROM または [EEPROM](#) デバイスで [DIMM](#) または [RIMM](#) 上に置かれます。SPD には DRAM タイミングやチップパラメータ等のメモリモジュール情報が保存されています。SPD はこの DIMM や RIMM 用に最適なタイミングを決定するのに [BIOS](#) によって使用されます。

Ultra DMA

Ultra DMA (または、より正確には Ultra DMA/33) は、ハードディスクからコンピュータのデータパス (またはバス) 経由でのコンピュータのランダムアクセスメモリ (RAM) へのデータ転送プロトコルです。Ultra DMA/33 プロトコルでは、バーストモードで従来の [ダイレクトアクセスメモリ \(DMA\)](#) の 2 倍である 33.3MB/s のデータ転送速度を実現します。Ultra DMA はハードディスクメーカーの Quantum corp 社及びチップセットとコンピュータバステクノロジーメーカーの Intel 社によって提案された工業仕様です。お手持ちのコンピュータで Ultra DMA をサポートしている場合、システム起動及びアプリケーション起動が速いことを意味します。またユーザーがグラフィックス中心やハードディスク上の多量データへのアクセスを要するアプリケーションを使用する際の支援をします。Ultra DMA はサイクリカルリダンダンシーチェック (CRC) をサポートし、一歩進んだデータ保護を行います。Ultra DMA には、PIO や DMA と同様、40 ピン IDE インタフェースケーブルを使用します。

16.6MB/s x2 = 33MB/s

16.6MB/s x4 = 66MB/s

16.6MB/s x6 = 100MB/s

USB (ユニバーサルシリアルバス)

USB は 4 ピンのシリアル周辺用バスで、キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、プリンタ、モデム等の低・中速周辺機器 (10Mbit/s 以下)がカスケード接続できます。USB により、従来の PC 後部パネルの込み入った配線は不要になります。

VCM(バーチャルチャンネルメモリ)

NEC 社のバーチャルチャンネルメモリ (VCM)はメモリシステムのマルチメディアサポート能力を大幅に向上させる、新しい DRAM コア構造です。VCM は、メモリコアおよび I/O ピン間に高速な静的レジスタセットを用意することで、メモリバス効率および DRAM テクノロジーの全体的性能を向上させます。VCM テクノロジーにより、データアクセスのレイテンシは減少し、電力消費も減少します。

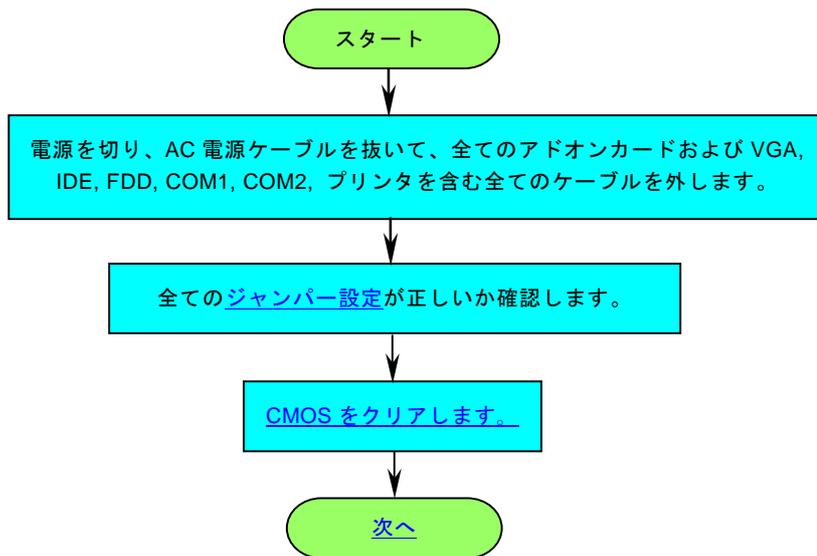
ZIP ファイル

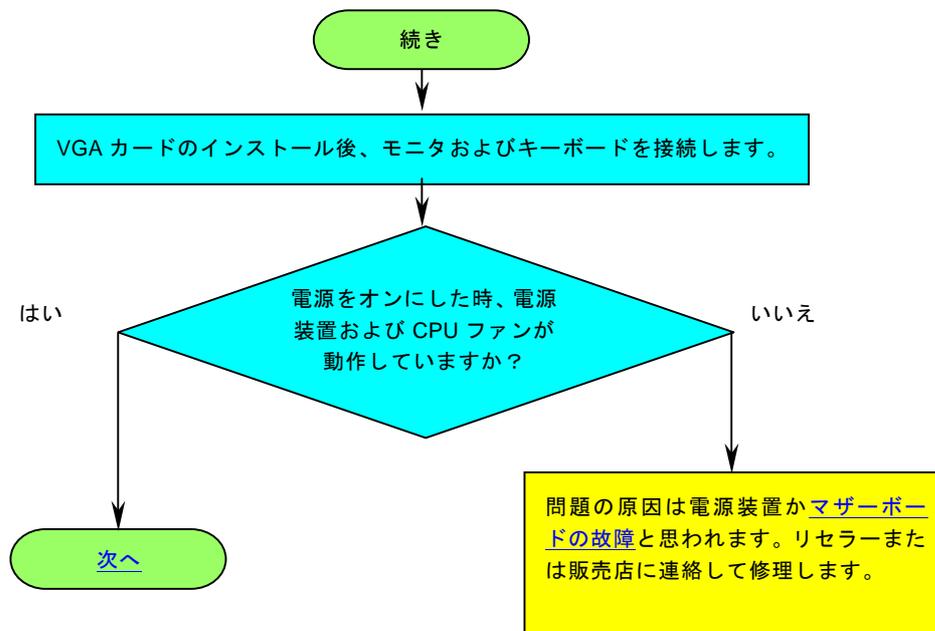
ファイルサイズを小さくするよう圧縮されたファイル。ファイルの解凍には、DOS モードや Windows 以外のオペレーションシステムではシェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com/>) を、Windows 環境では WINZIP (<http://www.winzip.com/>)を使用します。

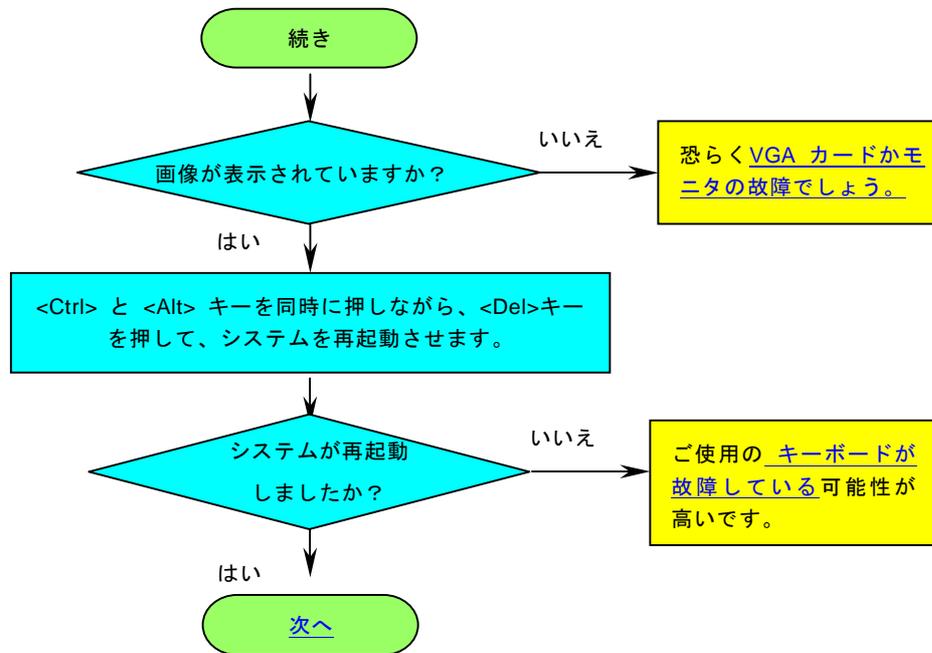


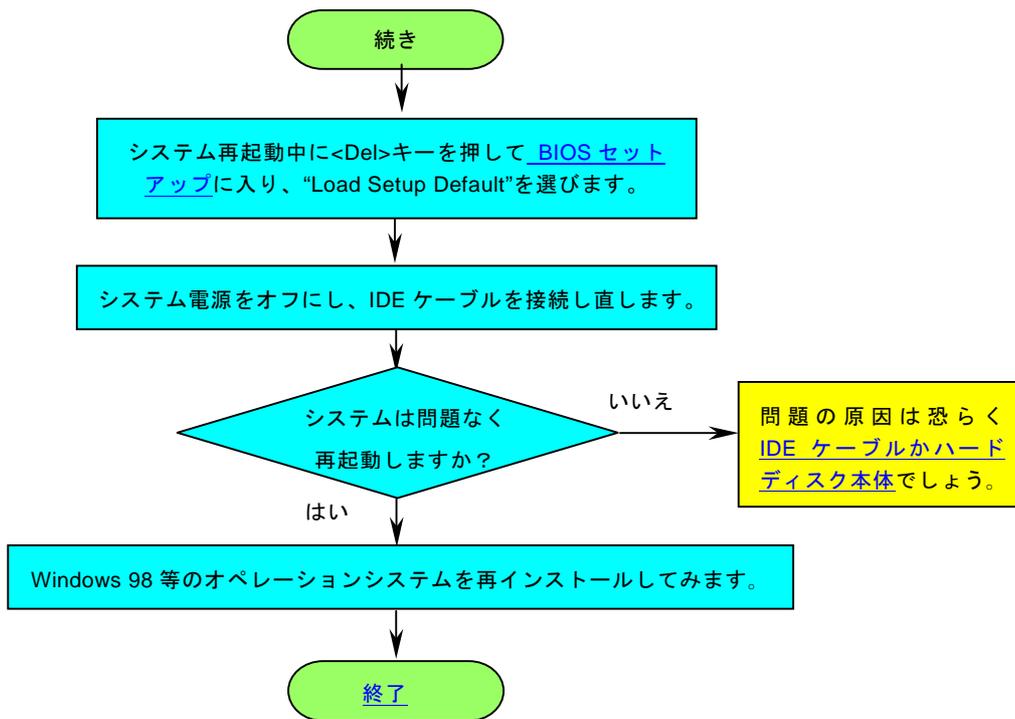
トラブルシューティング

システム起動時に何らかの問題が生じた場合は、以下の手順で問題を解決します。











テクニカルサポート

お客様各位へ

この度は、Aopen 製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら、毎日世界中から E メール及び電話での問い合わせが無数であり、全ての方に遅れずにサービスをご提供いたしますことは極めて困難でございます。弊社にご連絡になる前に、まず下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供していただけます。

皆様のご理解に深く感謝を申し上げます!

AOpen テクニカルサポートチーム一同

1

オンラインマニュアル: マニュアルを注意深くお読みになり、ジャンパー設定及びインストール手順が正しく行われることを確認してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: 自作パソコンのための互換性テストレポートより、マザーボード、アドンカード及びデバイスを選択するようお勧めいたします。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられた質問) よりトラブルの解決法が発見するかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: アップデートされた最新 BIOS、ユーティリティ及びドライバをチェックして取得してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: お抱えになっているトラブルに関して、弊社のエンジニアもしくはパワーユーザーよりその解決法をニュースグループに掲載されているかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店及びリセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラー及び SI を経由して販売しております。彼らはお客様のパソコン状況をよく知り、弊社より効率的にトラブルを解決することができます。彼らのサービス次第、お客様が彼らに別の製品を購入する意思が大きく左右されます。

7

弊社へのご連絡: 弊社までご連絡になる前に、システムに関する詳細情報及びエラー状況を確認して、必要に応じてご提供を求められる場合もあります。パーツナンバー、シリアルナンバー及び BIOS バージョンなどの情報提供も非常に役に立ちます。

パーツナンバー及びシリアルナンバー

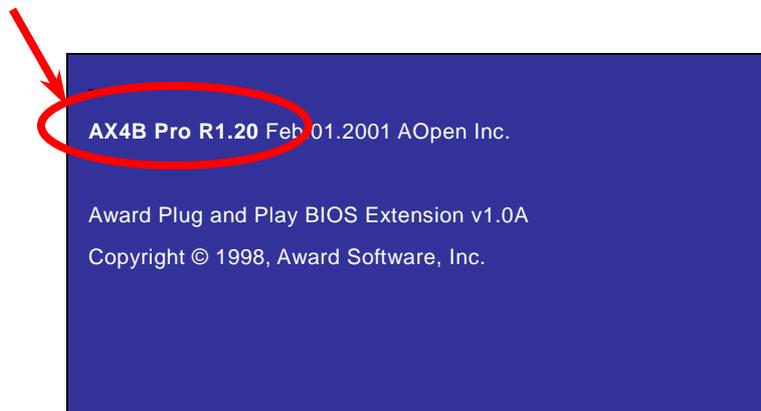
パーツナンバー及びシリアルナンバーがバーコードラベルに印刷されています。バーコードラベルは包装の外側、ISA/CPU スロットまたは PCB のコンポーネント側にあります。以下は一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツナンバーで、S/N: 91949378KN73 がシリアルナンバーです。

モデルネーム及びBIOSバージョン

モデルネーム及びBIOSバージョンがシステム起動時の画面（[POST](#)画面）の左上に表示されます。以下は一例です。



AX4B Pro がマザーボードのモデルネームで、R1.20 が BIOS バージョンです。



製品の登録

ClubAOpen

Welcome to AOpen Inc.



AOpen 製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品登録により、弊社からの万全たるサービスが保証されますので、是非下記の製品登録手続きを済ますようお勧め致します。製品登録後のサービスは以下の通りです。

- オンラインのスロットマシンゲームに参加して、ボーナス点数を累積して AOpen の景品と引き換えることができます。
- クラブ AOpen プログラムのゴールドメンバーにアップグレードされます。
- 製品の安全性に関する注意の電子メールが届きます。製品に技術上注意すべき点があれば、便利な電子メールで迅速にユーザーに通知することはその目的です。
- 製品に関する最新情報が電子メールで届けられます。
- AOpen のウェブサイトにおける個人ページを有することができます。
- BIOS/ドライバ/ソフトウェアの最新リリース情報が電子メールで届けられます。
- 特別な製品キャンペーンに参加する機会があります。
- 世界中の AOpen 専門家からの技術サポートを受ける優先権があります。
- ウェブ上のニュースグループでの情報交換が可能です。

お客様からの情報は暗号化されていますので、他人や他社により流用される心配はございません。なお、AOpen はお客様からのいかなる情報も公開はいたしません。弊社のプライバシー方針に関する詳細は、[オンラインでのプライバシーの指針](#)をご覧ください。

注意: 製品が相異なる販売店やリテラーから購入された場合、或いは購入の日付が同一でない場合において、各製品別に製品登録してください。

AOpen



弊社へのご連絡



弊社製品に関するご質問は何なりとお知らせください。皆様のご意見をお待ちしております。

太平洋地域

AOpen Inc.

Tel: 886-2-3789-5888

Fax: 886-2-3789-5899

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.

Tel: 31-73-645-9516

Fax: 31-73-645-9604

アメリカ

AOpen America Inc.

Tel: 1-510-498-8928

Fax: 1-408-922-2935

中国

艾尔鹏国际上海(股)有限公司

Tel: 86-21-6225-8622

Fax: 86-21-6225-7926

ドイツ

AOpen Computer GmbH.

Tel: 49-2102-157700

Fax: 49-2102-157799

日本国

AOpen Japan Inc.

Tel: 81-048-290-1800

Fax: 81-048-290-1820

ウェブサイト : <http://www.aopen.com>

Eメール : 下記のご連絡フォームをご利用になりメールでご連絡ください。

英語 <http://www.aopen.com/tech/contact/techusa.htm>

日本語 <http://www.aopen.co.jp/tech/contact/techjp.htm>

中国語 <http://www.aopen.com.tw/tech/contact/techtw.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/contact/techde.htm>

フランス語 <http://france.aopen.com/tech/contact/techfr.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/contact/techcn.htm>

